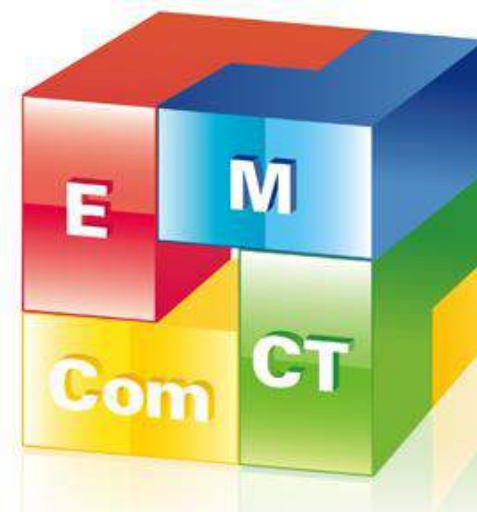


世界に通用する技術で未来を創出

Our Technologies Realize Your Dreams

2017年3月期
連結決算説明資料



2017年5月26日
オリジン電気株式会社

目次

2017年3月期 連結決算説明

1. 17/3期 連結決算概要		2. 18/3期 全社戦略概要	P 15～P 16
・ 連結経営成績	P 4	3. 18/3期 事業戦略概要	
・ セグメント別連結売上高	P 5	・ メカトロニクス事業	P 18～P 26
・ 海外顧客向け連結売上高	P 6	・ コンポーネント事業	P 27～P 43
・ セグメント利益	P 7	4. ご参考資料	
・ 連結設備投資、減価償却費	P 8	・ エレクトロニクス事業	P 46～P 52
・ 連結研究開発費、売上高研究開発費比率	P 9	・ ケミトロニクス事業	P 53～P 58
・ 連結財政の状態	P 10		
・ 連結キャッシュ・フローの状況	P 11		
・ 配当の状況	P 12		
・ 18/3期連結業績予想	P 13		

17/3期 連結決算概要

連結経営成績

(単位:百万円)

	17/3期	16/3期	コメント					
売上高	31,301	32,372	売上高 前期比	エレクトロニクス 8,620 5.2%減	メカトロニクス 2,948 1.1%減	ケミトロニクス 11,006 1.8%増	コンポーネント 8,725 8.0%減	合計 31,301 3.3%減
営業利益	930	1,560	セグメント利益	エレクトロニクス 17/3期 173 16/3期 986	メカトロニクス △66 73	ケミトロニクス 1,793 1,248	コンポーネント 881 1,018	調整額 △1,851 △1,767
経常利益	1,180	1,759	営業外収益に補助金収入94百万円、受取配当金90百万円、受取利息89百万円等を計上したことにより、 経常利益は1,180百万円となりました。					
親会社株主に帰属する当期純利益	▲ 1,376	1,010	※調整額は各事業に配分していない全社費用であります。					

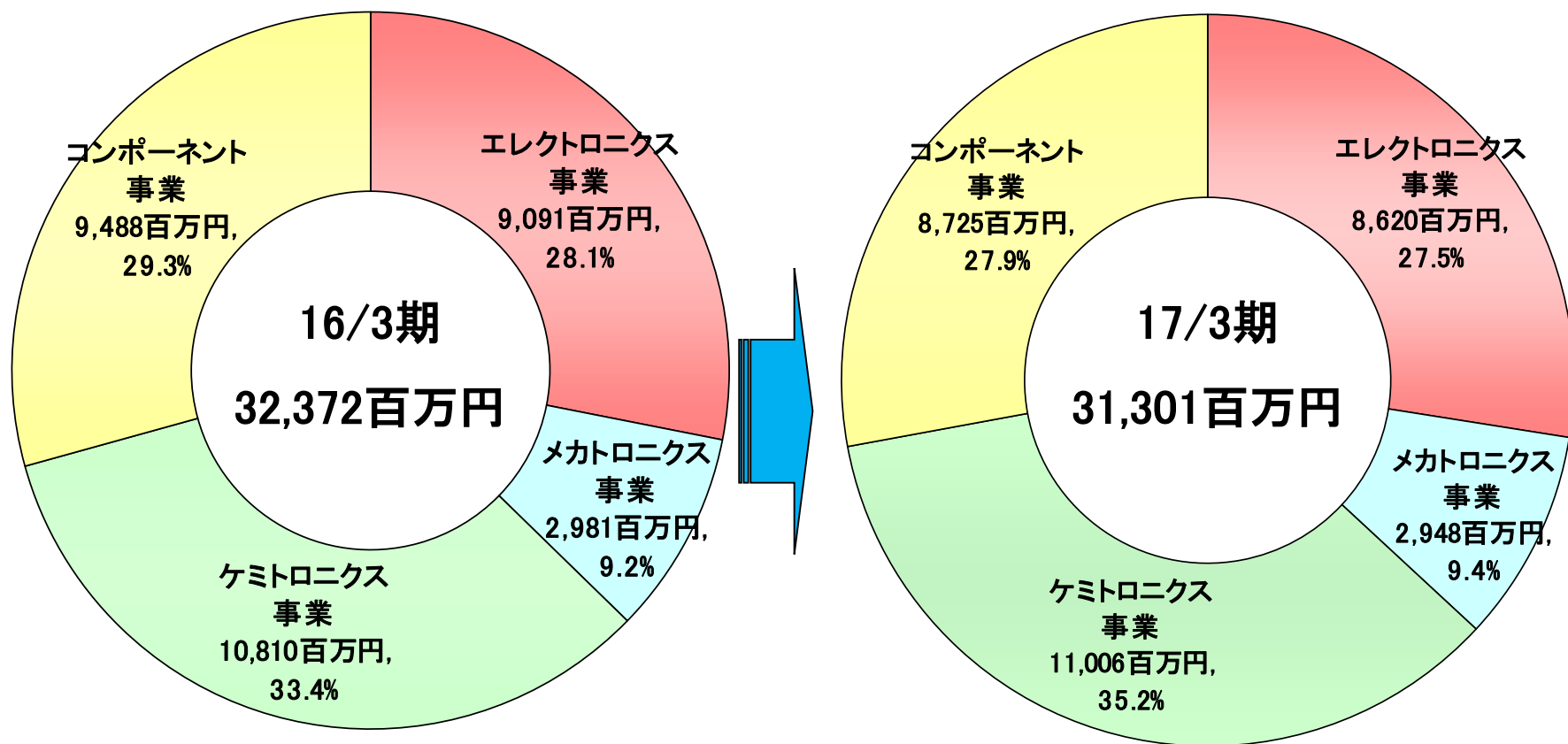
自己資本 当期純利益率	▲ 6.2%	4.4%
総資産 経常利益率	2.8%	4.1%
1株当たり 当期純利益	▲41円32銭	30円32銭

◆ POINT ◆

— 連結経営成績分析 —

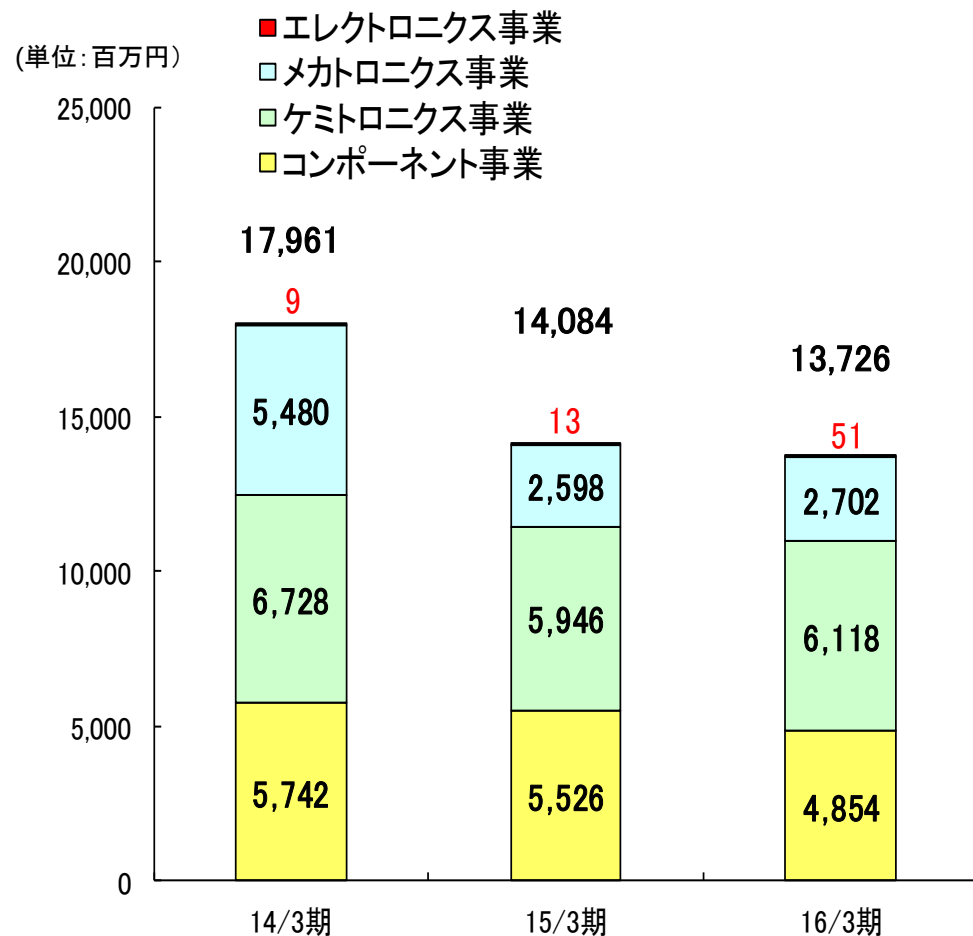
旧本社工場地下部解体工事および土壌改良工事費用の見積額15億3千8百万円を環境対策引当金繰入額として特別損失に計上したことにより、親会社株主に帰属する当期純損失は13億7千6百万円となりました。

セグメント別連結売上高

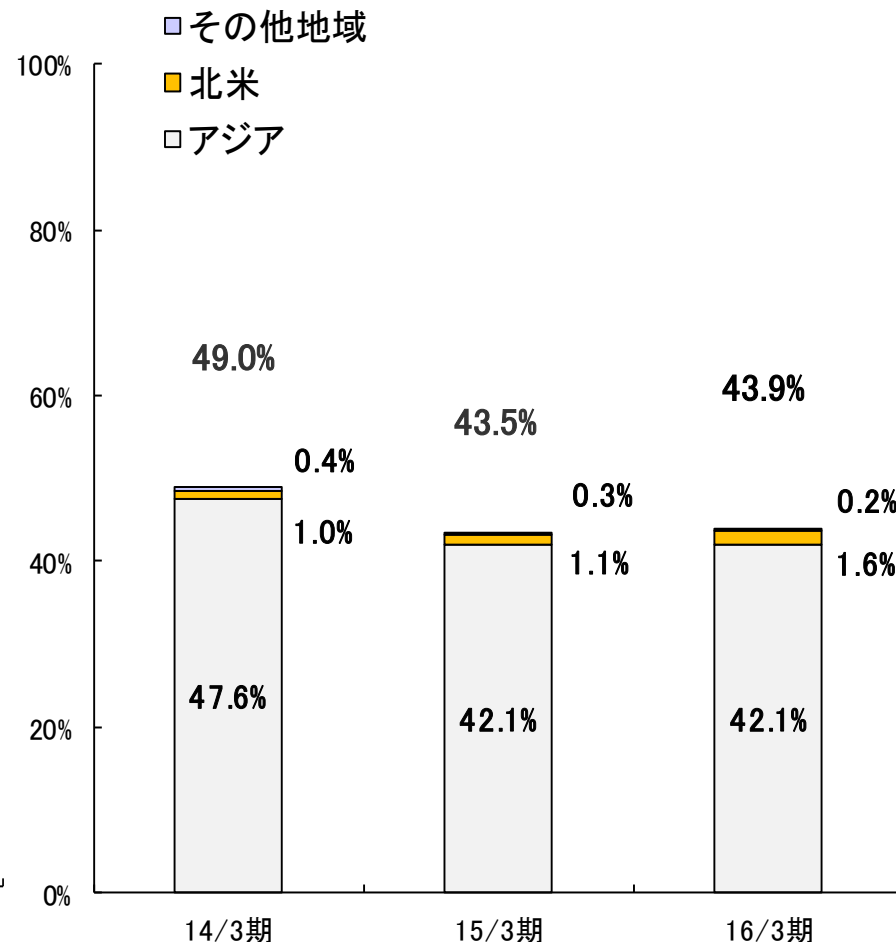


海外顧客向け連結売上高

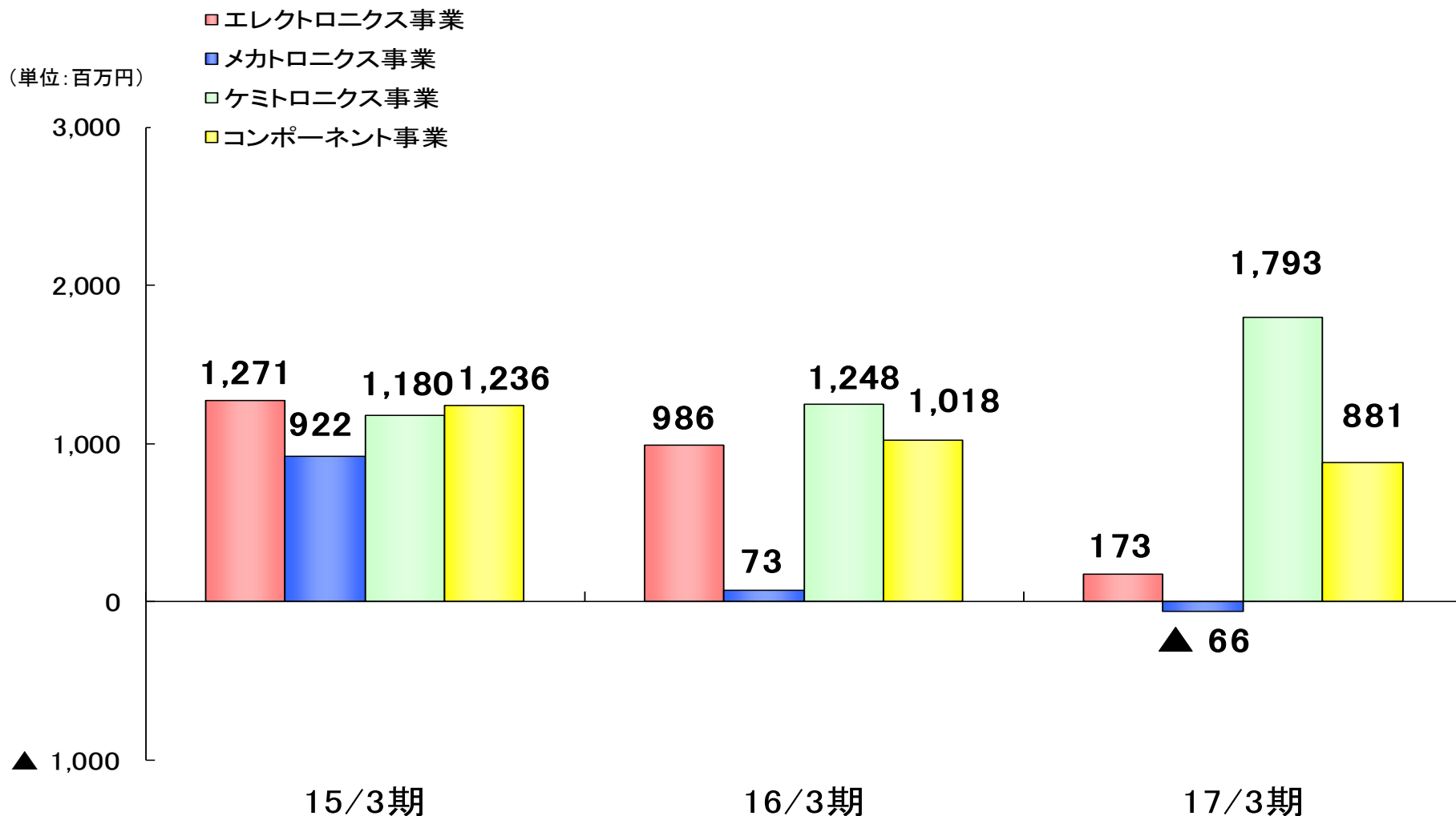
ーセグメント別ー



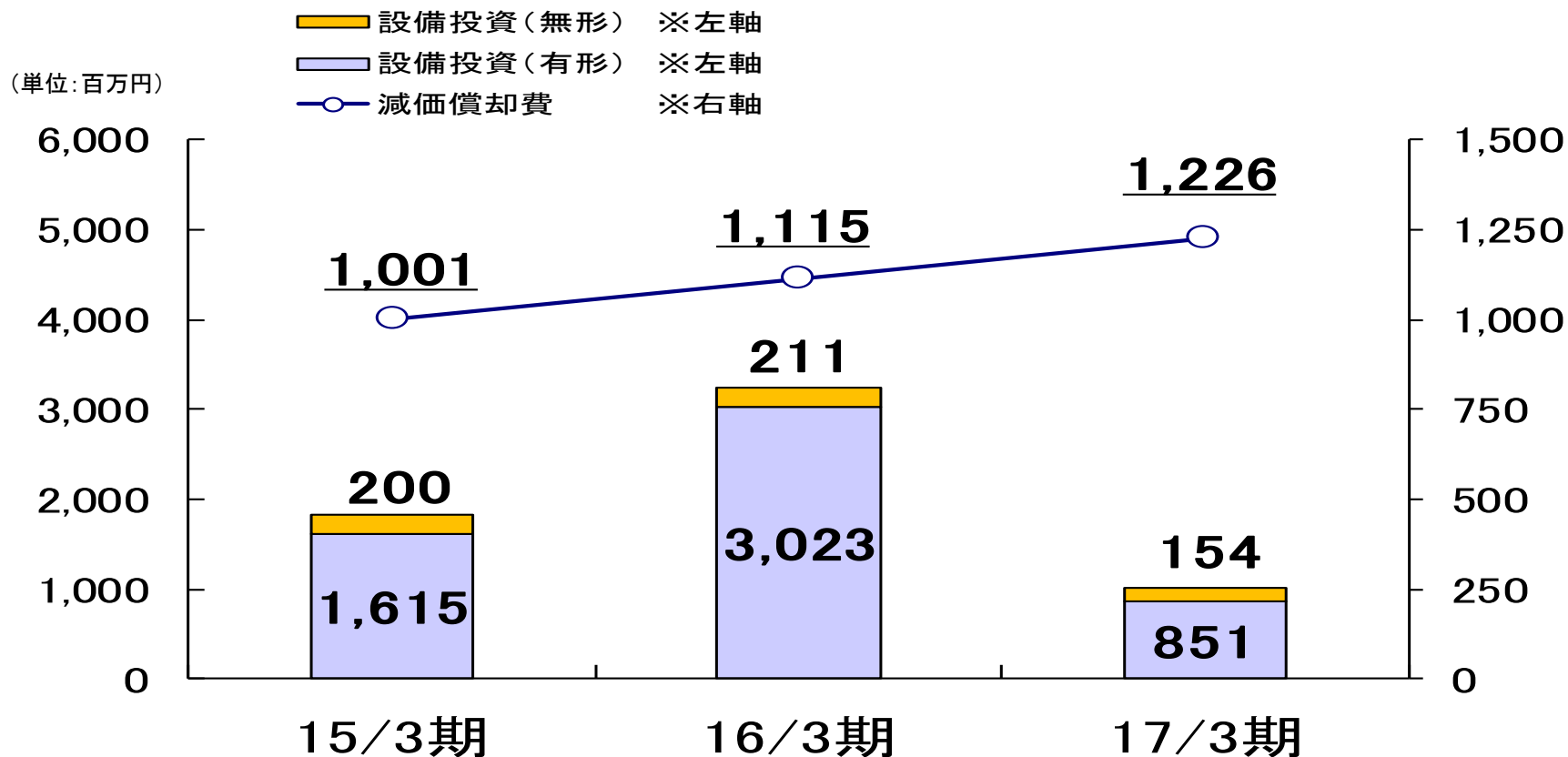
ー地域別ー



セグメント利益（全社費用配分前）

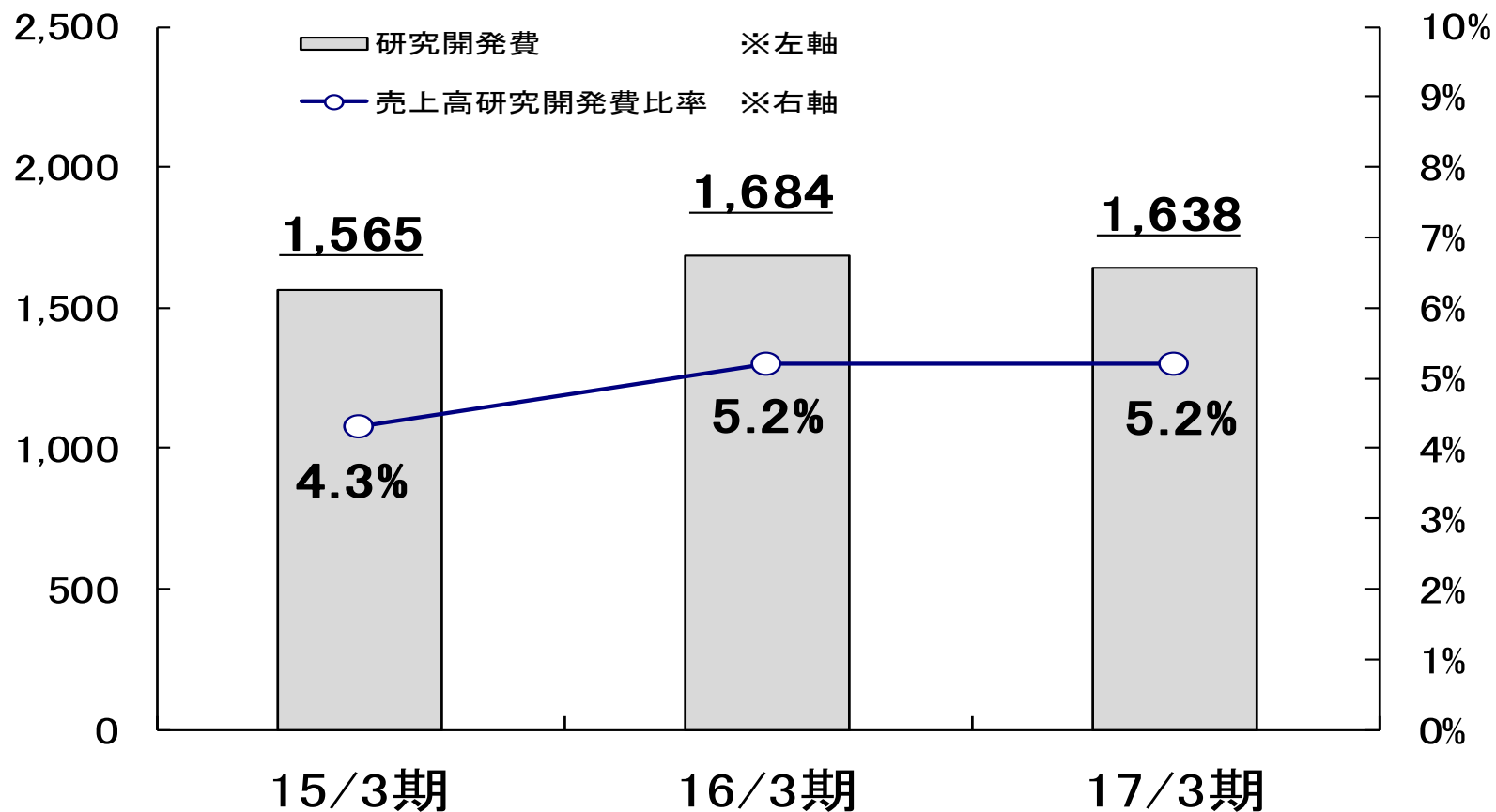


連結設備投資、減価償却費



連結研究開発費、売上高研究開発費比率

(単位:百万円)



連結財政の状態

	17/3/31	16/3/31	コメント
流動資産	25,427	25,935	前期末比 507減少 : 電子記録債権417増加、受取手形及び売掛金389増加 現金及び預金489減少、商品及び製品204減少
固定資産	16,830	16,828	前期末比 1増加 : 投資有価証券513増加 建物及び構築物414減少、繰延税金資産124減少
流動負債	13,496	12,556	前期末比 1,357増加 : 電子記録債務2,344増加、環境対策引当金1,538増加、 1年内返済予定の長期借入金667増加 支払手形及び買掛金2,589減少、短期借入金700減少、 固定資産解体費用引当金304減少
固定負債	5,069	4,652	
純資産	23,692	25,555	
総資産	42,258	42,764	

	17/3/31	16/3/31
自己資本比率	50.2%	53.7%
時価ベースの 自己資本比率	24.0%	21.7%
1株当たり純資産	636円15銭	688円63銭

◆POINT◆

ー連結財政状態分析ー

旧本社工場地下部解体工事および土壌改良工事費用の見積額15億3千8百万円を環境対策引当金として計上したことにより、前連結会計年度末より負債が13億5千7百万円増加しております。

連結キャッシュ・フローの状況

(単位: 百万円)

	17/3期	16/3期	コメント
営業活動によるC/F	1,200	2,515	増加要因: 環境対策引当金の増加額1,538、減価償却費1,226 減少要因: 売上債権の増加額974、固定資産解体費用引当金の減少額304
投資活動によるC/F	▲ 1,206	▲ 3,774	減少要因: 有形固定資産の取得による支出832、無形固定資産の取得による支出164
財務活動によるC/F	▲ 191	957	増加要因: 長期借入による収入2,000 減少要因: 長期借入金の返済による支出1,030、短期借入金の減少額700、 配当金の支払額233、非支配株主への配当金の支払額198
現金及び現金同等物の増減額 (▲は減少)	▲ 456	▲ 494	
現金及び現金同等物の期末残高	5,578	6,034	

◆POINT◆

ー連結キャッシュ・フロー分析ー

前期と比べ、営業活動によるC/Fが減少し、現金及び現金同等物の残高は55億7千8百万円となり、前連結会計年度末より4億5千6百万円減少いたしました。

キャッシュ・フロー 対有利子負債比率	3.4年	1.5年
インタレスト・カバレッジ・レシオ	32.2倍	78.0倍

配当の状況

(単位:円)

	17/3期	16/3期	18/3期 (予想)
第2四半期末	3.50	3.50	3.50
期末	3.50	3.50	17.50
年間	7.00	7.00	—
配当性向	▲16.9%	23.1%	66.6%

- ・ 2017年10月1日に5株⇒1株にする株式併合を実施予定。(株主総会の承認可決が条件)。
- ・ 株式併合を考慮する前の1株当たり期末配当金は、前期と同額の3.5円(通期7円)。
- ・ 18/3期(予想)の期末配当金は株式併合を考慮した3.5円×5株＝17.5円を記載しているため、年間金額は、「—」表示している。

18/3期連結業績予想

(単位: 百万円)

	18/3期 業績予想	17/3期	増減	増減率
売上高	32,500	31,301	1,198	3.8%
営業利益	1,000	930	69	7.5%
経常利益	1,000	1,180	▲ 180	▲ 15.3%
親会社株主に帰属する 当期純利益	350	▲ 1,376	1,726	—

◆POINT◆

18年3月期の連結売上高のセグメント別内訳は、以下のとおりです。(各セグメントの予想は連結調整後)

- ・エレクトロニクス事業 90億円
- ・メカトロニクス事業 20億円
- ・ケミトロニクス事業 115億円
- ・コンポーネント事業 100億円

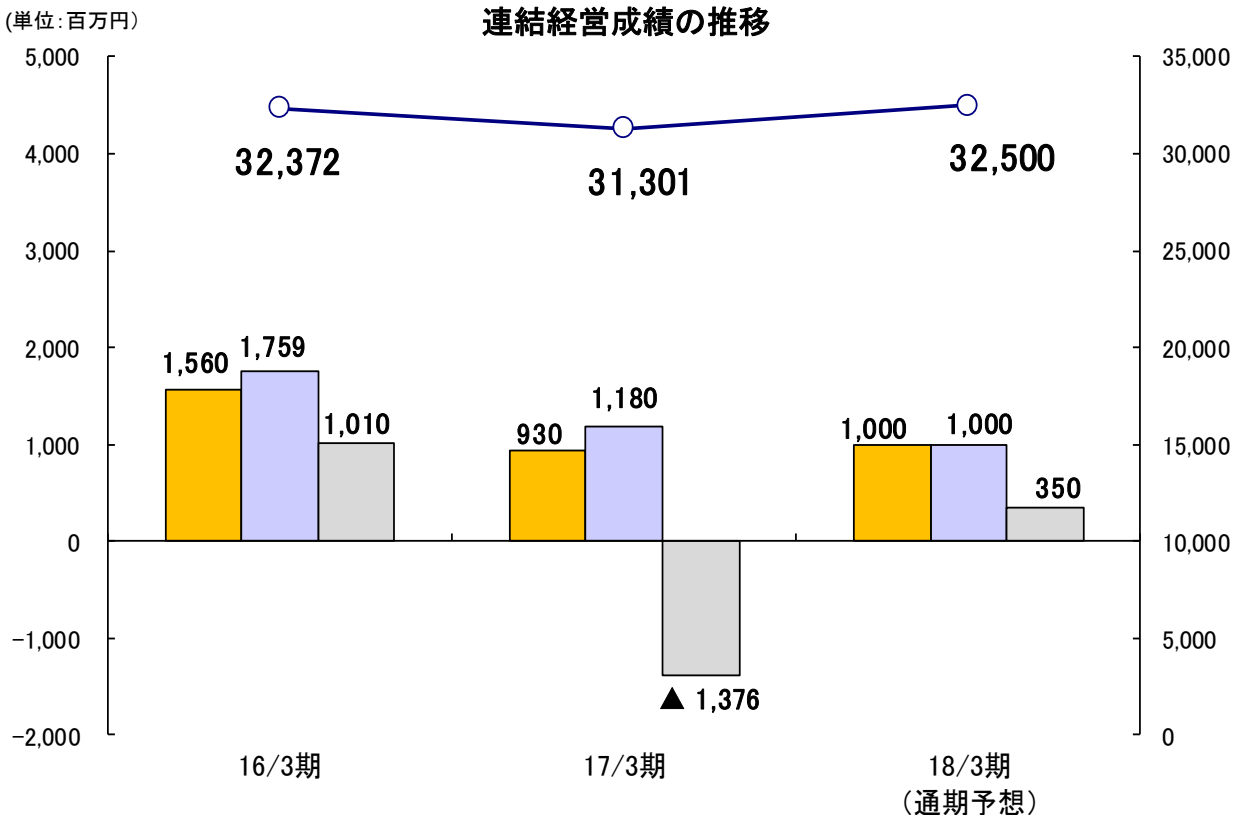
MEMO

18/3期 全社戦略概要

全社戦略

- 営業利益(通期) ※左軸
- 経常利益(通期) ※左軸
- 親会社株主に帰属する当期純利益(通期) ※左軸
- 売上高(通期) ※右軸

連結経営成績の推移



4つの
キーワード

海外売上高比率強化

収益力強化

旧本社工場跡地の活用

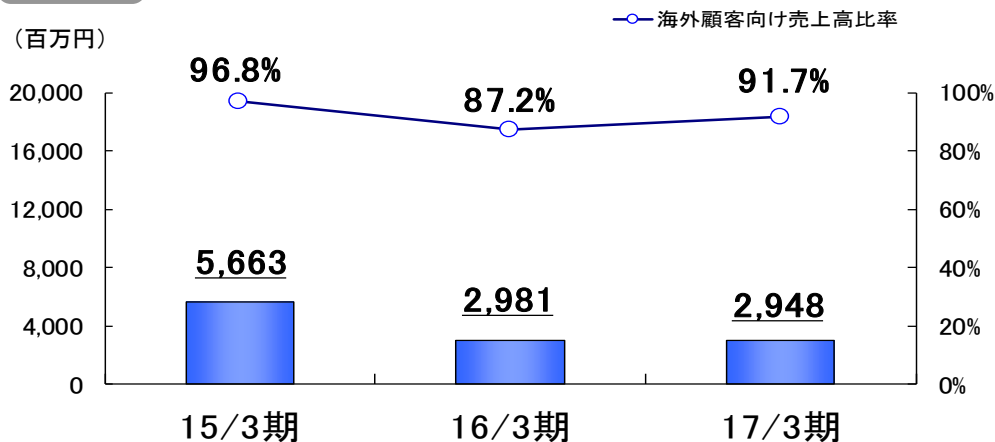
東邦化研工業本社移転

18/3期 事業戦略概要

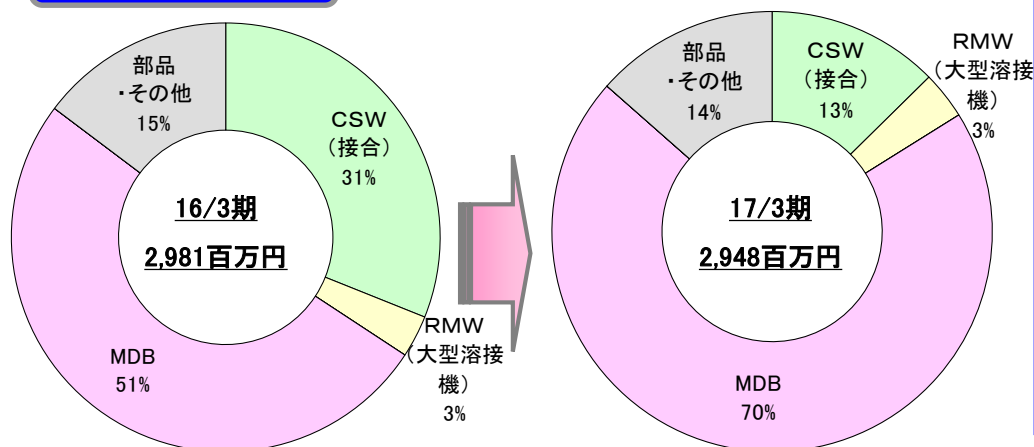
メカトロニクス事業

1. 概況

売上高



市場別売上高比率



◆POINT◆

◇17/3期 決算概要

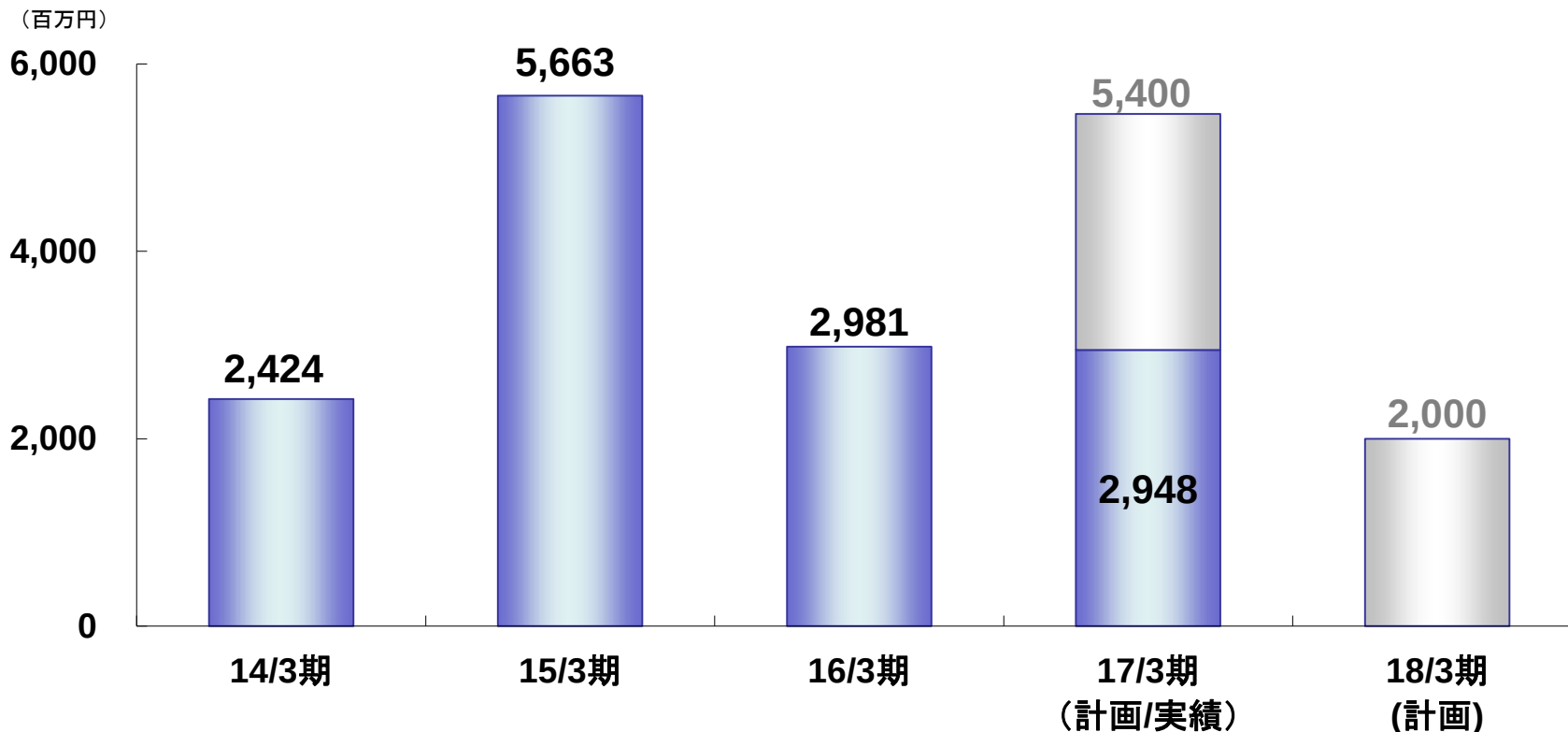
売上高は前期比1.1%減の29億4千8百万円(総売上高の9.4%)となりました。MDBは大型案件により前期に比べ伸長したものの、光通信関連市場(接合)は前期の中国における市場停滞の影響が大きく、売上げを伸ばすことが出来ませんでした。

◇18/3期 計画概要

- ・MDBは中国市場への拡販を継続
- ・大型溶接機は自動車部品向け新規顧客拡販
- ・接合は光半導体用小型自動溶接機の高付加価値製品対応強化による市場確保
- ・真空溶ダは新モデルによるパワー半導体/LED市場への拡販
＝大型量産機MP2・小型生産機VS1

通期売上高計画20億円

2. 売上高の推移



17/3期計画と実績の差異要因

- ・MDBは前期比にて売上を約30%伸ばすことができたものの、中国ローカルメーカーへの量産装置の拡販を計画通りに進めることができませんでした。
- ・小型溶接機は光半導体の中国における市場停滞と、競合他社の影響もあり、計画から大きく落ち込む結果となりました。

3. 主要製品群(4本の柱)

重点製品とターゲット市場

1. 【MDB】(Mobile Display Bonder)

モバイルディスプレイ用貼合せ装置

オフライン装置拡販を
軸に市場確保！

→中国ローカル市場



3. 【CSW】(Cap Seal Welder)

光半導体用小型溶接機

高付加価値製品へ
の対応！

→アジア光通信市場



2. 【RMW】(Ring Mash Welder)

自動車部品用大型溶接機

→国内・海外
自動車関連市場



4. 【VSM】(Vacuum Soldering Machine)

真空ソルダリングシステム

改良版投入！

→国内・アジア
パワー半導体市場
LED市場

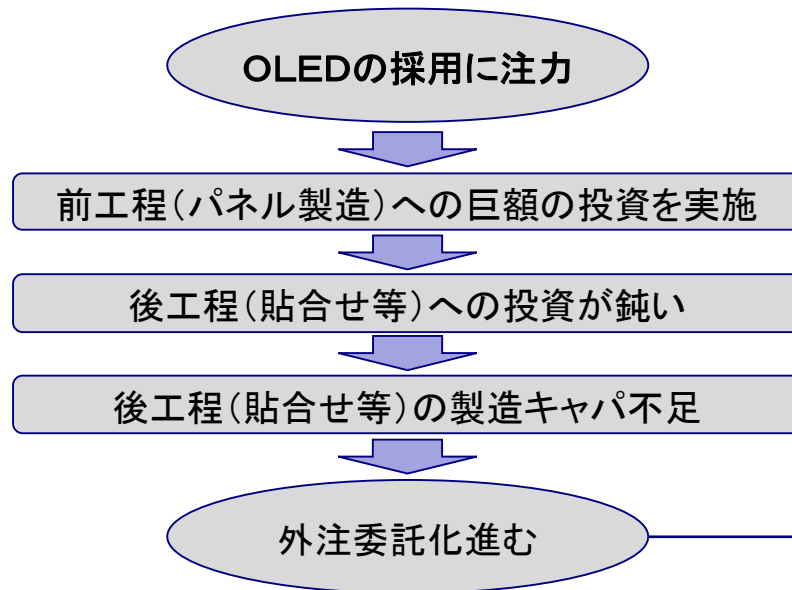


4-1. 18/3期 売上高減少の要因

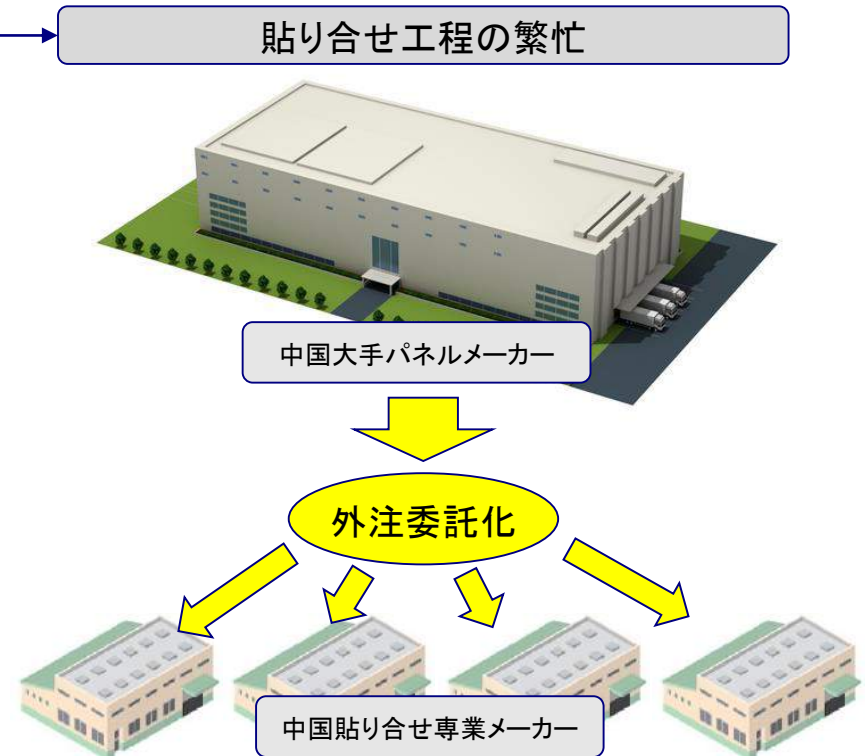
MDBが前期比大幅減

中国大手パネルメーカーは有機EL(OLED)に向けた前工程(パネル製造)への投資を先行させ、後工程(貼合せ等)への投資は鈍いと予測

中国大手パネルメーカーの動向



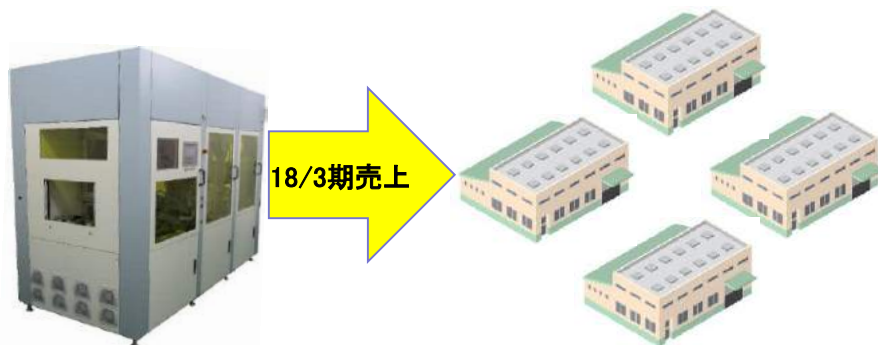
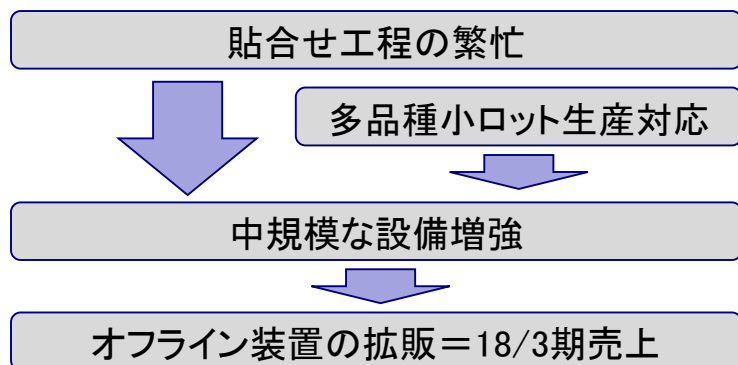
中国貼合せ専門メーカーの動向



4-2. 18/3期 MDB取組み

- ① 中国貼合せ専門メーカーへのオフライン装置拡販により市場確保
- ② 下期に大手パネルメーカー向けインライン装置受注／19/3期売上

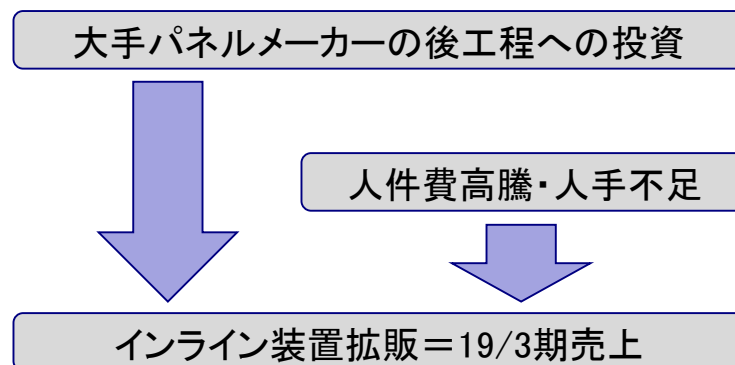
①中国貼合せ専門メーカーへの取組み



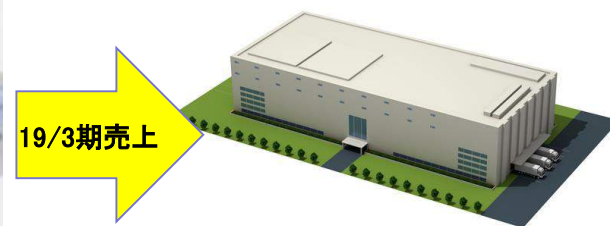
オフライン装置 (LC3・NR4T)

中国貼り合せ専門メーカー

②中国パネルメーカーへの取組み

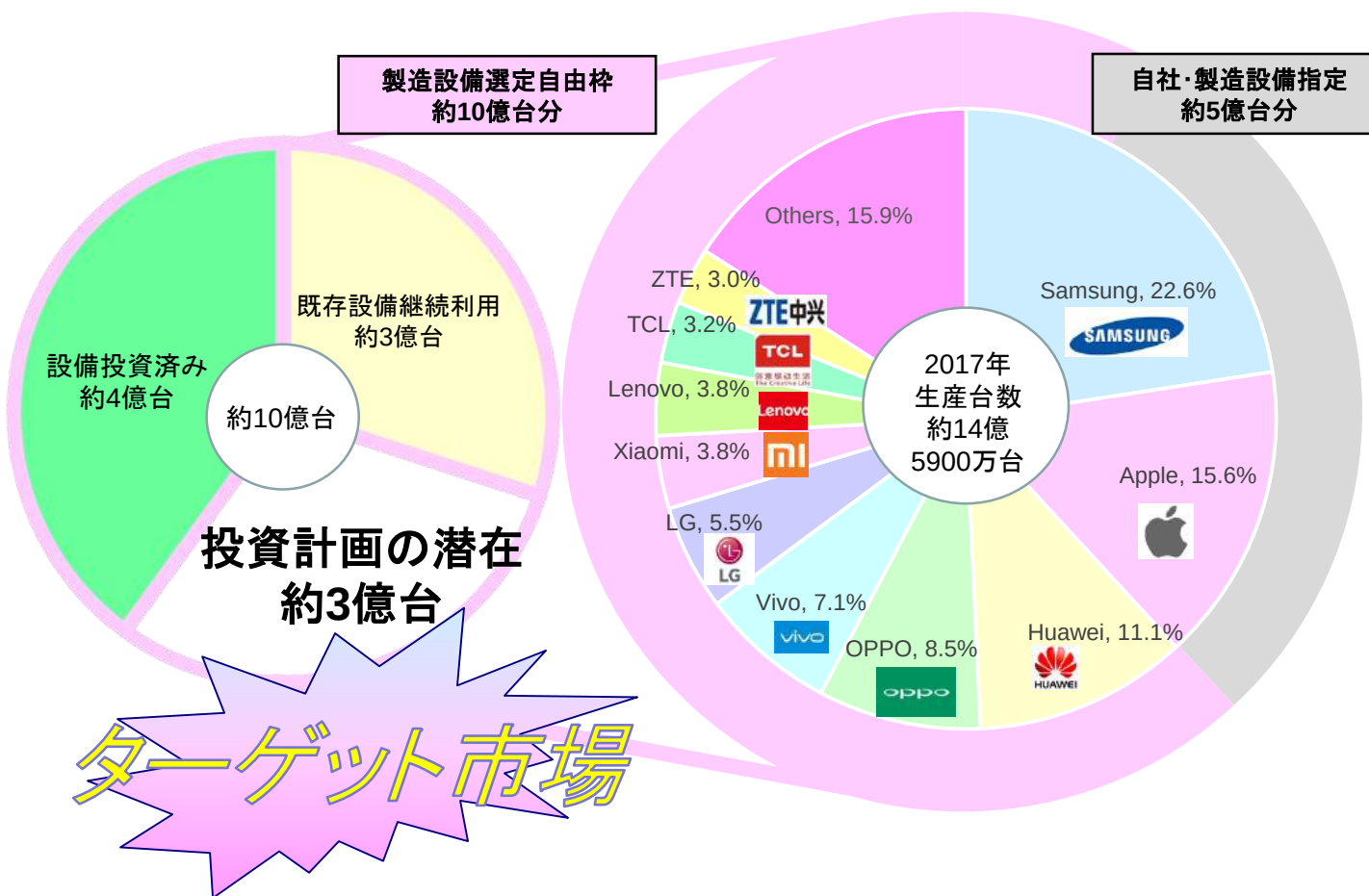


インライン装置 (イメージ)



中国大手パネルメーカー

4-3. MDB市場ターゲット



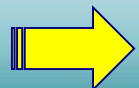
メーカー	シェア(%)	台数(百万台)
Samsung	22.6	329.0
Apple	15.6	227.5
Huawei	11.1	162.0
OPPO	8.5	124.0
VIVOi	7.1	103.0
LG	5.5	80.0
Xiaomi	3.8	55.5
Lenovo	3.8	55.5
TCL	3.2	46.5
ZTE	3.0	44.0
Others	15.9	232.0
Total	100	1459.0

2017年スマートフォン世界Share
データ出所 TrendForce

5. CSW(光半導体用小型溶接機)

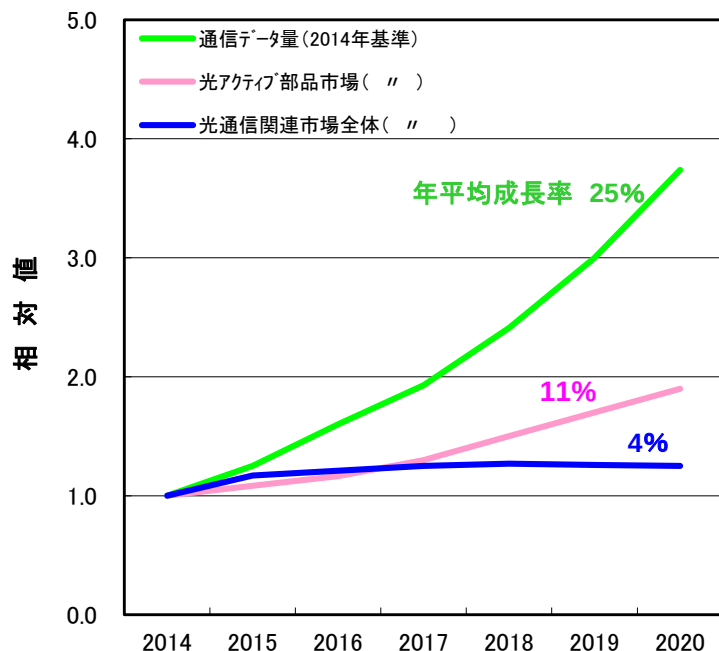
光通信関連市場向け

多様化する顧客製品対応に
新機能を投入



高付加価値製品対応

通信データ量と光通信市場の将来予測



・通信データ量: 米シスコシステムズによる予測
・光通信関連市場全体・光アクティブ部品市場:
「2015光通信関連市場総調査」富士キメラ総研

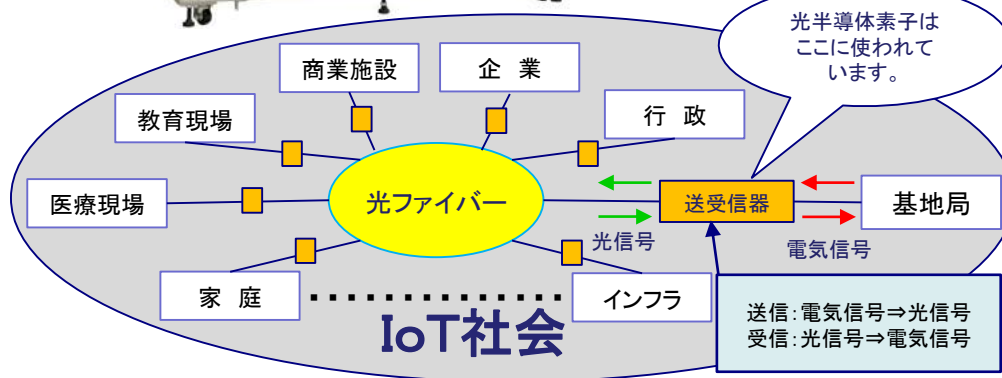


キャップと発光素子を接合

キャップ

発光素子

光半導体素子は
ここに使われて
います。



生産・販売拠点



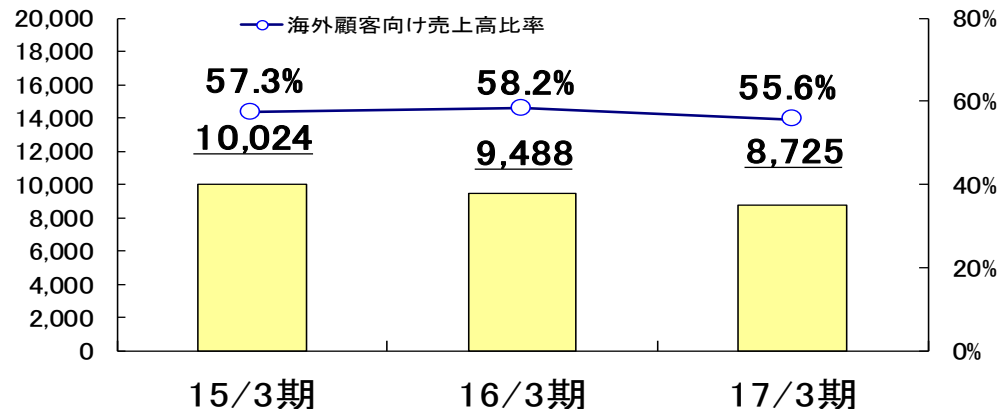
コンポーネント事業

※17/3期より、半導体デバイス及び精密機構部品を統合いたしました。

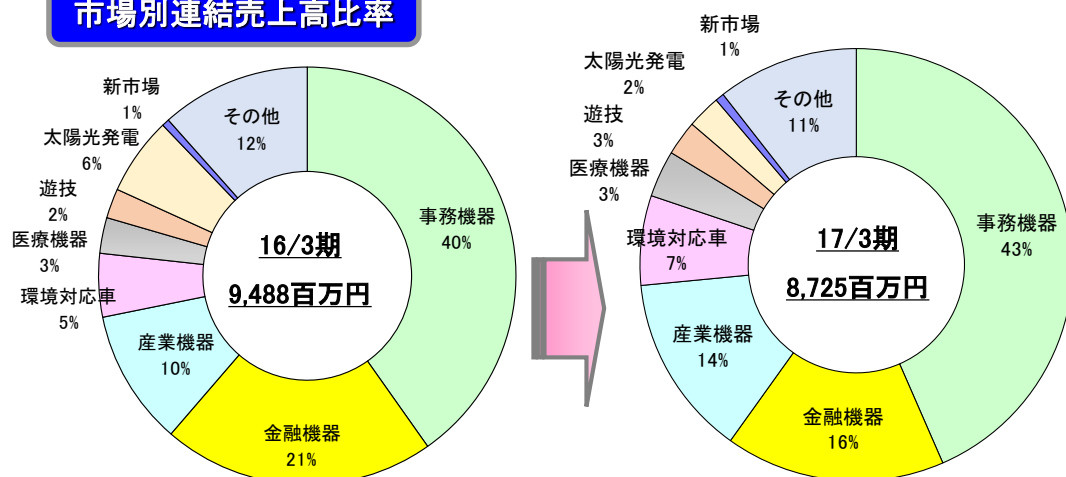
1. 概況

連結売上高

(百万円)



市場別連結売上高比率



◆POINT◆

◇17/3期 連結決算概要

売上高は前期比8.0%減の87億2千5百万円(総売上高の27.9%)となりました。事務機器向けは数量増も為替の影響により微減、金融関係は依然中国市場低迷により減、また太陽電池関係も回復傾向ではありますが市場としては不透明であり、通期では大幅減となりました。一方設備関係は半導体装置市場の活況、車載部品関係も市場の伸びを受け前期比大幅増となり医療機器関連も海外への販路拡大も有り前期比増となりました。

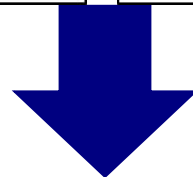
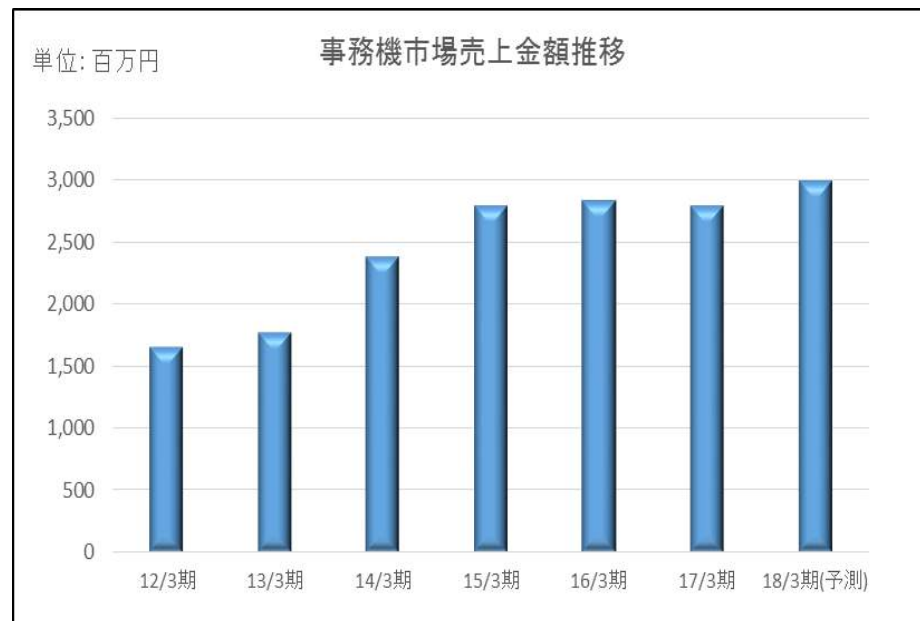
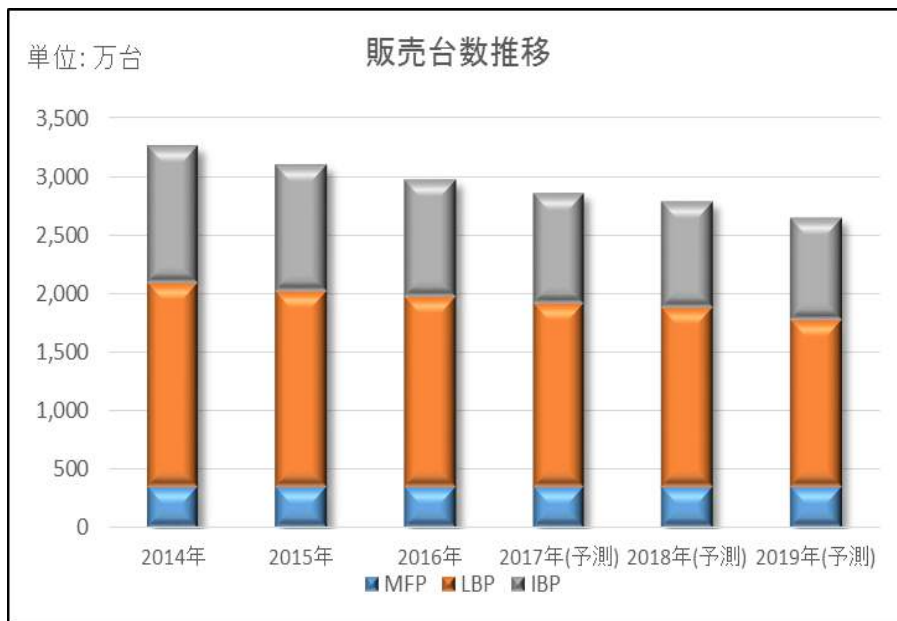
◇18/3期 連結計画概要

事務・金融機器の主力市場は中国であります、日系顧客においては「チャイナ+1」の志向が以前に増して強まり、ASEAN圏への生産シフト加速が進んでいます。この状況に対応するために、東南アジアでの生産体制の拡充が急務となっています。設備関係は、半導体製造装置が活況であり、対応する機器部品も旺盛な需要を呈しています。また、車載や医療関係は今後も安定的に推移する予想です。

通期売上高計画100億円(連結調整後)

2. 精密機構部品の市場①

2-1. 事務機器市場の動向

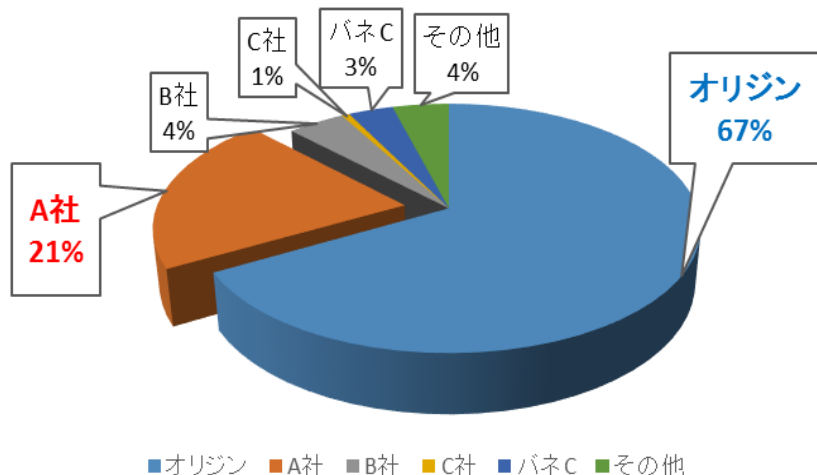


事務機世界市場規模は縮小傾向も、当社売上金額は着実に増加

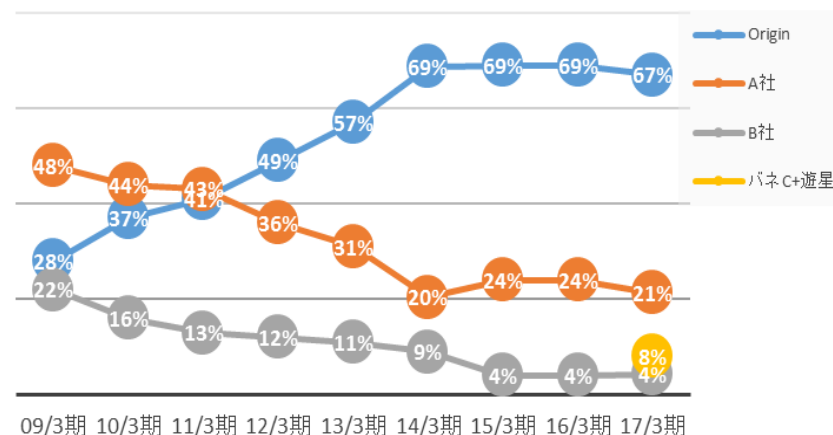
2. 精密機構部品の市場①

2-2. 事務機市場におけるワンウェイクラッチ世界シェア

ワンウェイクラッチ市場シェア(17/3期)



ワンウェイクラッチ シェア推移グラフ(事務機市場)



課題

圧倒的世界トップシェアを維持も近年伸び悩み。

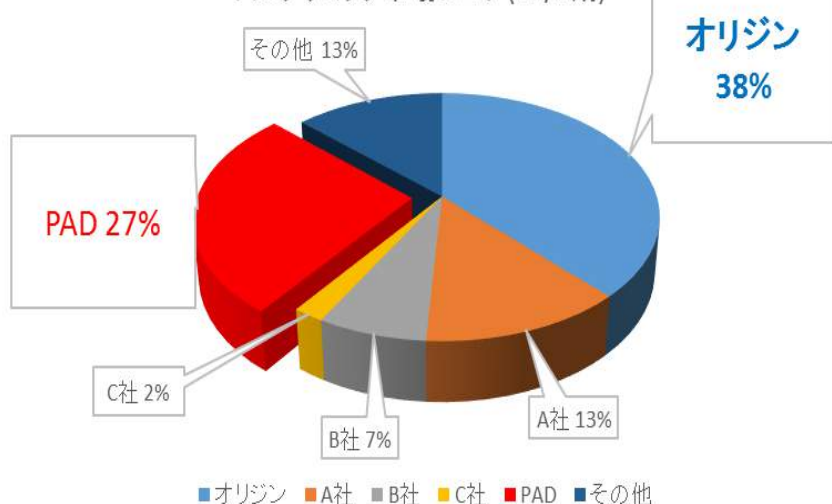
対策

タイムリーな現地生産供給による顧客満足度向上。

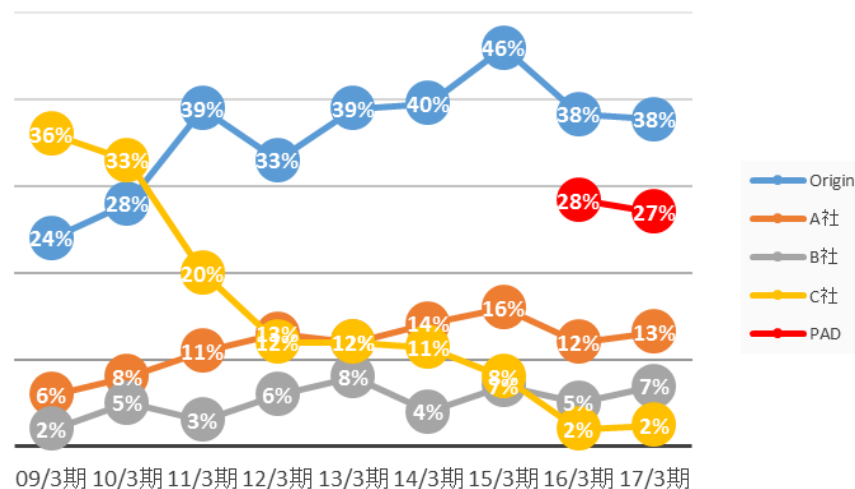
2. 精密機構部品の市場①

2-3. 事務機器市場におけるトルクリミッタ世界シェア

トルクリミッタ市場シェア(17/3期)



トルクリミッタ シェア推移グラフ(事務機市場)



課題

トップシェアを維持(PAD方式以外)も近年伸び悩み。

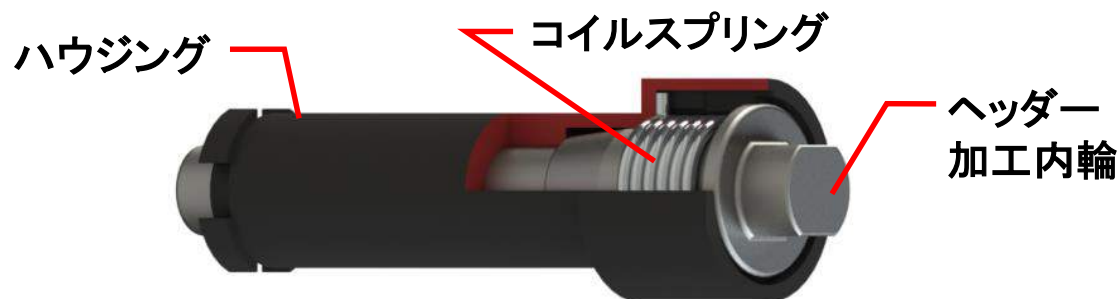
対策

更なるシェア拡大に向け、PAD方式への参入が必須。

2. 精密機構部品の市場①

2-4. シェア拡大へ向けた新製品

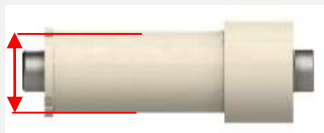
RT
(ローラー型トルクリミッタ
(PAD代替トルクリミッタ))



特長1

・小型

シャフト一体化により
小型プリンタへも検討
可能



Φ 8.5

特長2

・簡易性

ローラ交換の容易に
します。ゴムとの一体
販売が可能。



特長3

・低コスト

部品点数を減らし更なる低コスト化を実現

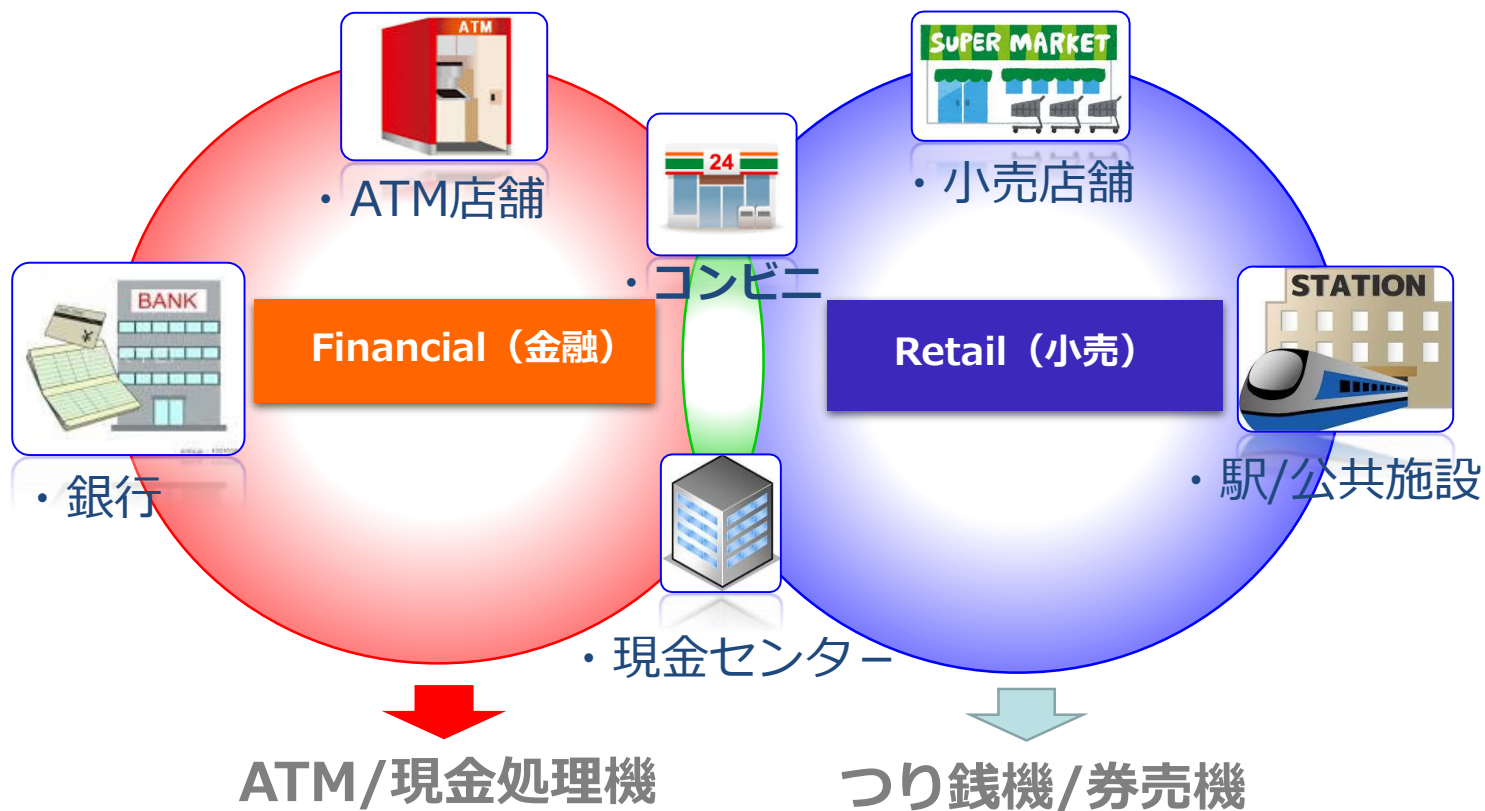


販売目標

- ・低速MFP
- ・中高速LBP
- ・販売目標額
2億円／年

2. 精密機構部品の市場②

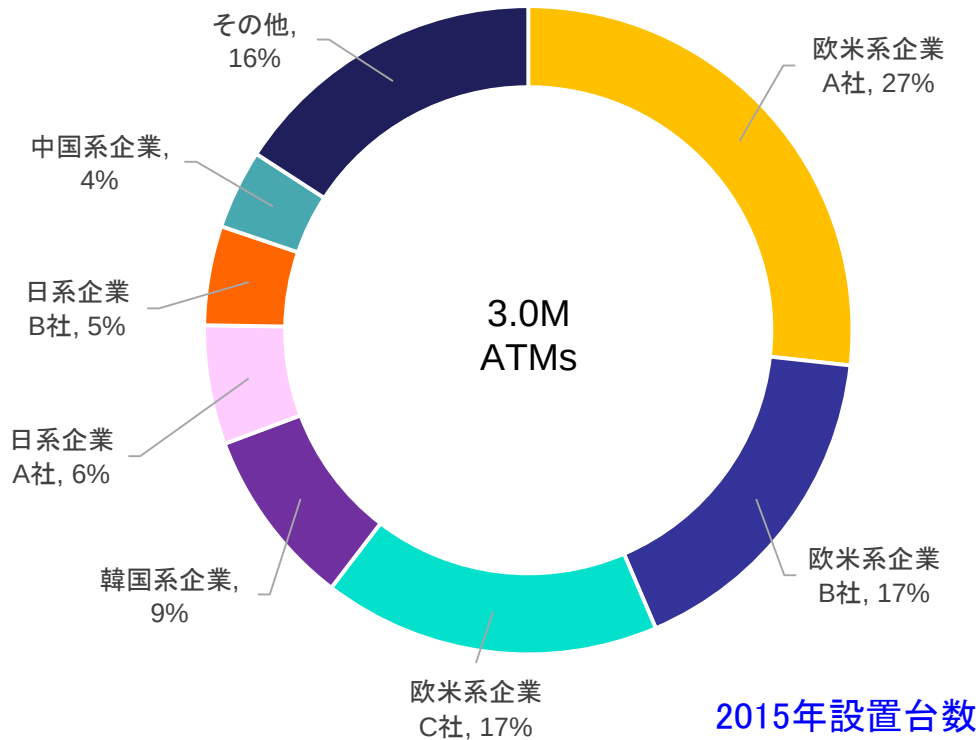
2-5. 金融市場(含む小売市場)の当社ターゲット業態



2. 精密機構部品の市場②

2-6. ATMの市場構成

ATM世界シェア～台数～



2. 精密機構部品の市場②

2-7. 単体部品からユニット／モジュール販売へ

■ウレタンゴム複合品の拡販



用途：紙幣搬送



販売目標

・ターゲット

紙幣搬送機構

・販売目標額

2.0億円／年間

3. 新市場への取組み

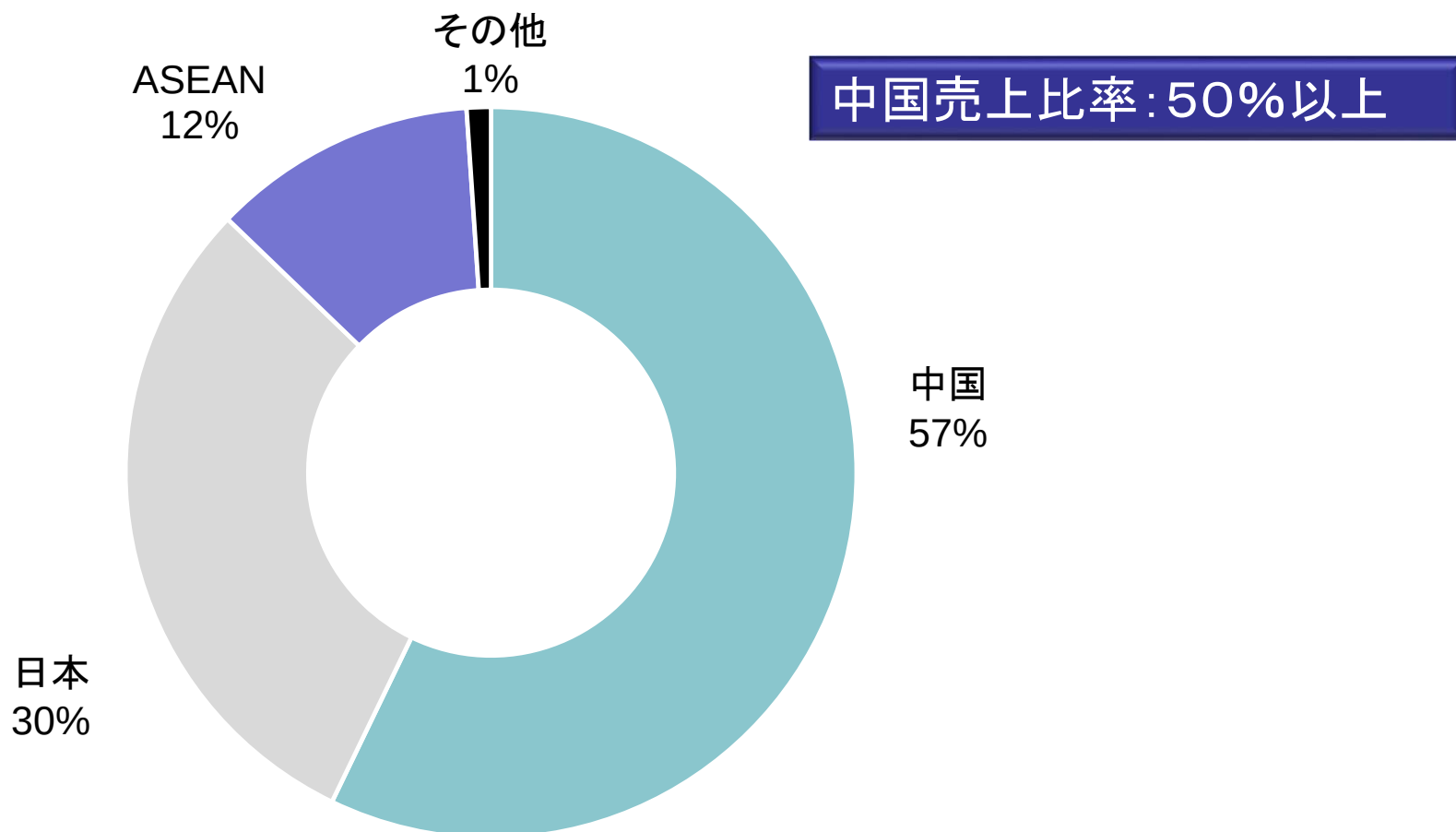
ターゲット市場

- 自転車市場 (切替機構)
- 住宅設備市場 (安全機構)
- スマート家電市場 (安全機構)
- 自動車市場 (切替機構)



4. グローバル展開

4-1. 精密機構部品の地域売上比率(17/3期・連結)

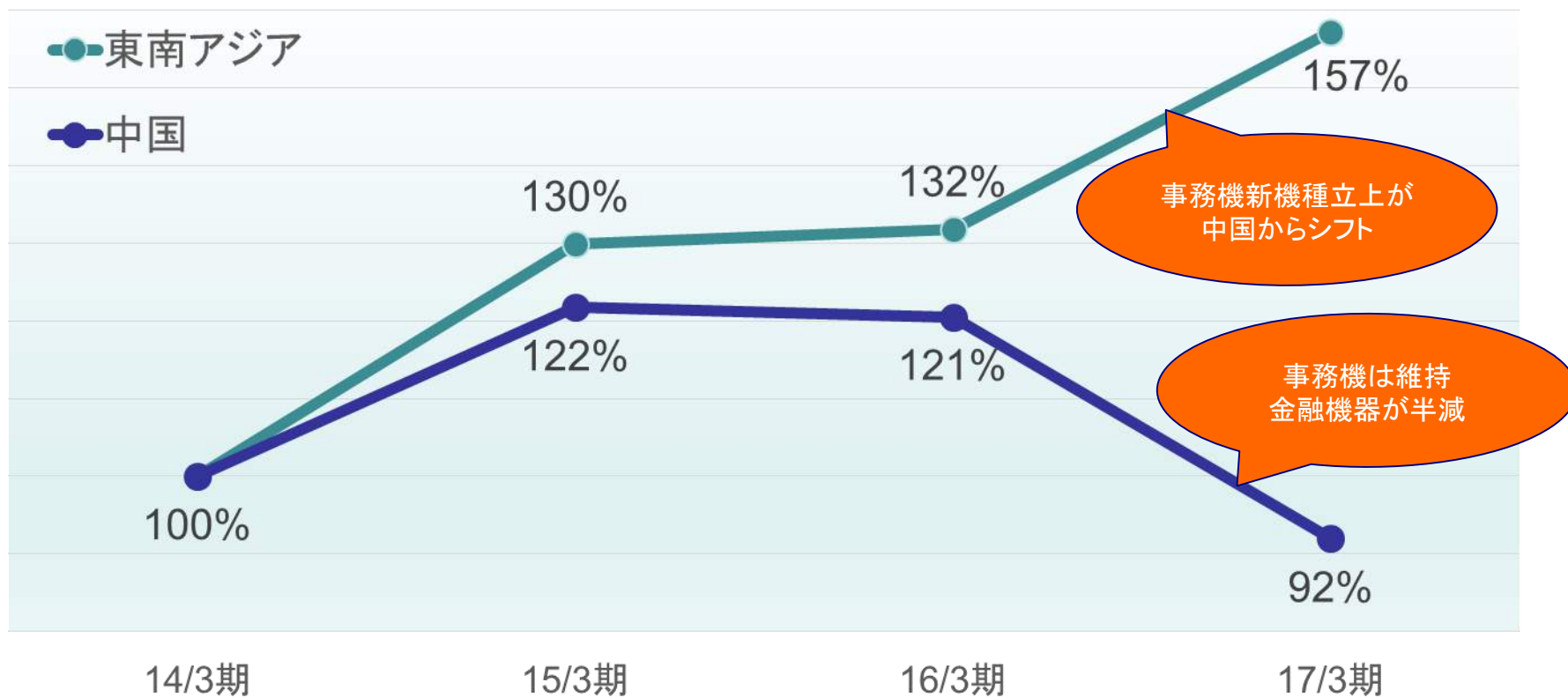


4. グローバル展開

4-2. 地域別売上推移(連結)

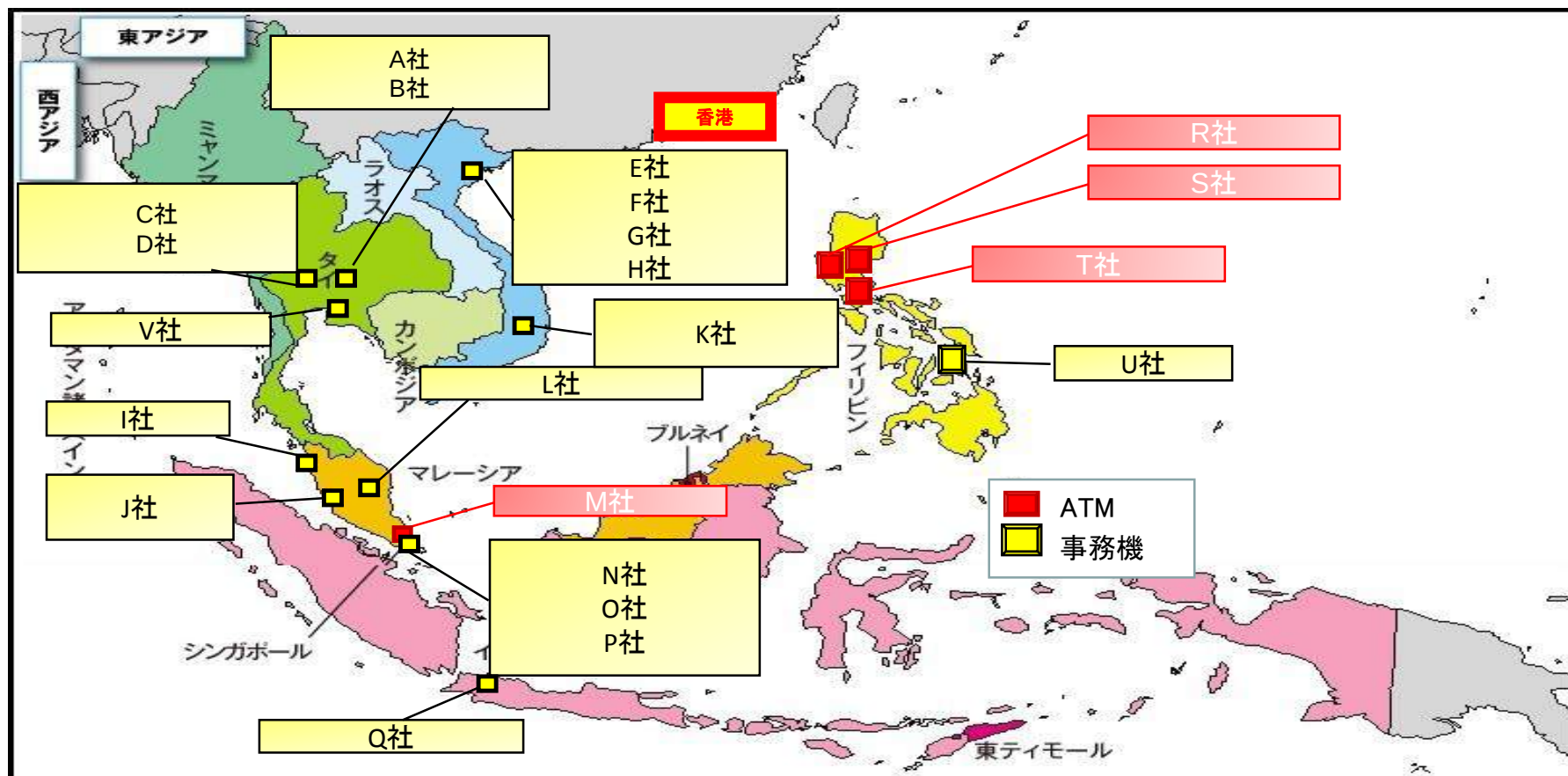
中国から東南アジアへシフト

※14/3期を100とした場合の推移



4. グローバル展開

4-3. 東南アジア主要顧客マップ



4. グローバル展開

4-4. 華南地区部品調達、生産委託の拠点



5-1. 主要製品紹介

モジュール製品

特 長：超高压対応の製品から
サージ吸収スナバーモジュール、
回路技術と組み合わせたカスタムモジュール
など多様な複合製品を提供します。

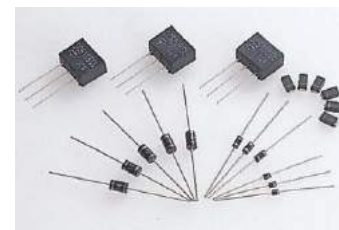
用途：大電力装置用、高電圧発生用
使用例：自動車、家庭用ソーラ、
医療用レントゲン、
電子顕微鏡



アキシャルリード部品

特 長：高電圧・高効率のサージ対策製品を
シリーズ化しています。

用途：電気製品の雷、静電気対策
使用例：エアコン、パチンコ



表面実装部品

特 長：高電圧・大電流製品を超小型で実現しています。

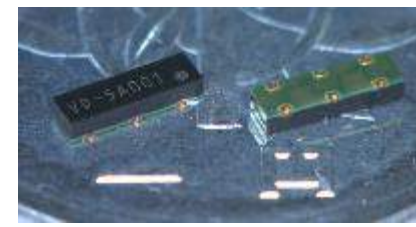
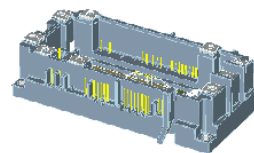
用途：電気製品の雷、静電気対策
使用例：デジタルカメラ、ゲーム機器



カスタム製品

特 長：お客様のニーズに合わせた製品を実現します。

用途：ソーラー、超小型高圧電源
使用例：パワーコンディショナー、その他



5-2. 主要製品紹介②

ワンウェイクラッチ (OWC)

特 長：

一方向は空転し、
その反対方向はかみ合う機能を持った製品です。
主にワンウェイクラッチと歯車・ローラなど
を一体化した製品として用いられます。

使用例：・金融機器（ＡＴＭ等）
・ＯＡ関連機器
・自動発券機
・半導体実装装置



トルクリミッタ (OTL)

特 長：

設定トルクを境に回転トルクを伝達したり、
スリップをして遮断する機能製品です。

使用例：・金融機器（ＡＴＭ等）
・ＯＡ関連機器
・自動発券機
・各種安全機構



ワンウェイヒンジ (OWH)

特 長：

ワンウェイクラッチとトルクリミッタの機能を
兼ねそろえたヒンジです。
従来のヒンジでは開ける時と閉める時で発生トルク
は同等ですが、この製品は一方向にフタ等を保持
するための負荷トルクを有し、他方向ではトルクを
発生せず空転状態となります。

使用例：・ＯＡ関連機器
・各種機器のフタ
・ユニットの開閉機構



ベアリング

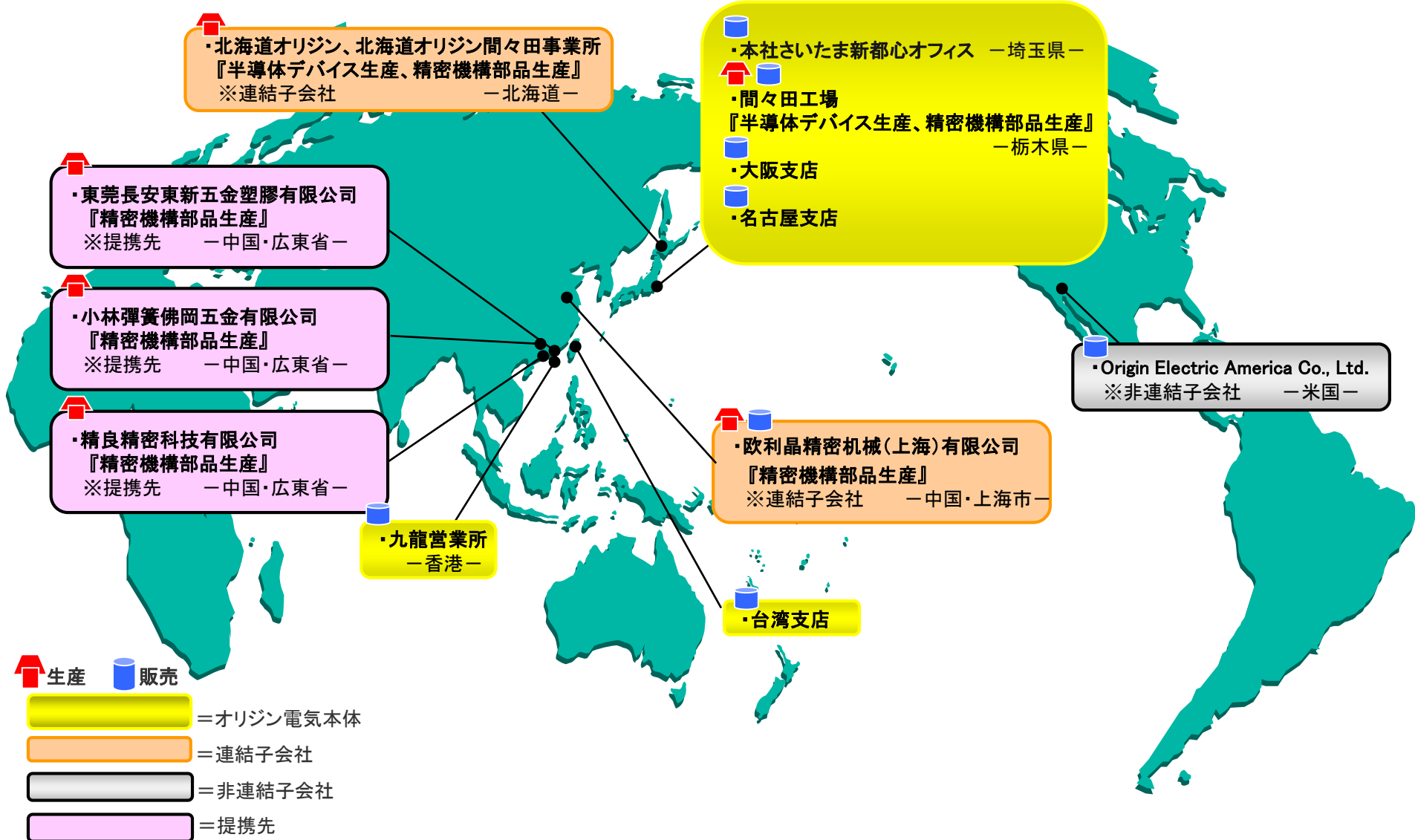
特 長：

ミニチュアボール軸受とプーリ・ギアや軸等の
精密加工部品を複合的に組立てたユニット製品です。
数々のベアリング製造より得られたノウハウを活かし、
高精度かつ高品質な対応をしています。

使用例：・金融機器（ＡＴＭ等）
・工作機械
・自動発券機
・半導体実装装置
・医療機器



生産・販売拠点



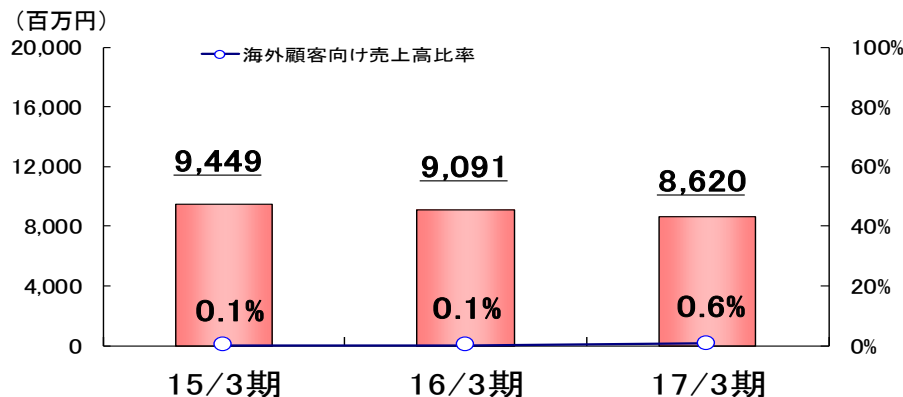
MEMO

ご参考資料

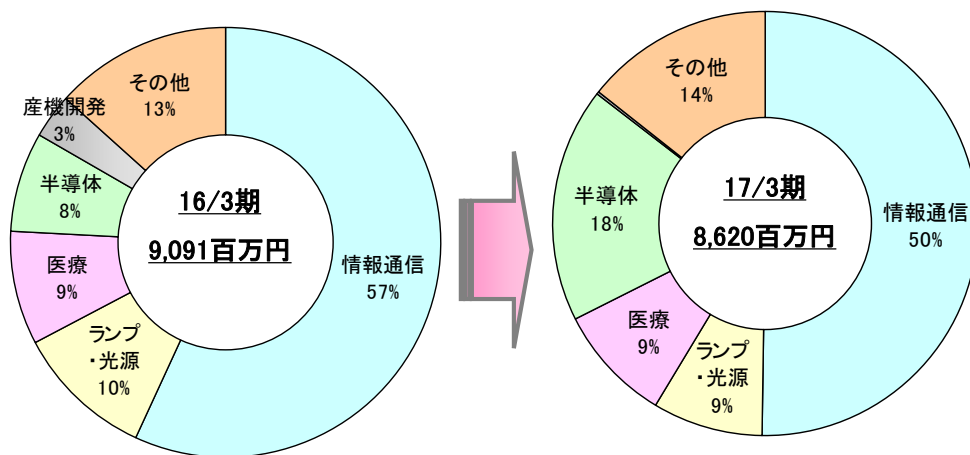
エレクトロニクス事業

1. 概況

連結売上高



市場別連結売上高比率



◆POINT◆

◇17/3期 連結決算概要

売上高は前期比5.2%減の86億2千万円(総売上高の27.5%)となりました。半導体製造装置向け高電圧電源および液晶製造装置向けの高電圧電源については、大型の設備投資需要があり伸長しましたが、スマートフォンなどの携帯端末向けの無線基地局用電源の投資については、首都圏エリアで一巡したことから減速し、更に一部の停電対策等の用途においても伸び悩み売上高は減少しました。

◇18/3期 連結計画概要

通信用電源においては携帯端末のための無線基地局用電源の販売に引続き注力してまいります。加えて、蓄電を中心としたエネルギー分野への参入にも注力してまいります。
高圧関連電源では、液晶ディスプレイ・半導体製造装置向け電源の安定度を強みとして販売に注力し、また医療用機器向け電源は、アジア市場を中心にグローバル展開を目指してまいります。

通期売上高計画90億円(連結調整後)

2. 新製品紹介

高電圧直流(HVDC)給電用100kW電力変換装置

◇製品化の目的・背景

本装置は、データセンタ、通信ビルのHVDC(高電圧直流)給電システム用として開発した 100kW 電力変換装置です。DC380V を入力とし、DC-48V を出力します。HVDC 給電の普及にあたり、マイグレーション装置として従来の DC-48V 装置への給電に対応します。

◇特長

- 1) 装置出力: 100kW
- 2) コンバータユニット(DC-48V 出力): 22 台搭載
- 3) 視表示部搭載
 - ・状態、計測表示機能(LCD 表示)
 - ・情報転送機能(LAN インターフェース)
 - ・警報試験機能

◇用途

- 1) 通信用電源
- 2) 蓄電池充電装置
- 3) 直流系統連携

※本製品は、株式会社NTTファシリティーズ様のご指導の下、開発しました。



3-1. 主要製品紹介：情報通信用電源

通信センター局用整流装置

特 長：

DC48V出力4A～6000A、小容量から大容量までの整流装置をラインナップしています。

大容量の整流装置は、システム構成により高密度実装の50A/100A/150A/200A/250Aの整流器ユニットを搭載しています。

更に予備機のある並列冗長運転方式を採用した、信頼性の高い電源装置です。

高電圧直流給電整流装置（HVDC=High Voltage Direct Current）は、高効率、安全性、デザイン性を重点にし、DC380V出力容量最大105kW供給可能な電源装置です。

使用例：データセンター、通信センター局



【DC48V整流装置】



【DC380V整流装置】

移動通信基地局用整流装置

特 長：

DC48V出力6A～600Aの屋外仕様タイプから屋内仕様タイプまでの整流装置をラインナップしています。屋外仕様タイプでは電柱に取付が可能な小型・軽量・無騒音（FANレス）の整流装置もあり、屋内仕様タイプでは高さ1U（44.45mm）の小型・薄型・高密度実装の整流器ユニットを搭載した電源装置もあります。

使用例：携帯電話、スマートフォンの無線基地局



3-2. 主要製品紹介：情報通信用電源

インバータ

特 長： 直流入力を交流正弦波出力に変換する高効率インバータです。
当社の整流器との組合せにより、各種バックアップニーズに対応することが出来ます。
また各種機能・条件などお客様のご要望のカスタマイズも可能です。

用 途： 各種バックアップ電源



パッケージ電源

特 長： 高信頼性で多出力に対応したパッケージ電源は
お客様のご要望を最適設計にて実現致します。

用 途： 通信用、エレベータ用等



3-3. 主要製品紹介：高電圧用電源

電気集塵機用電源

特 長： 煤塵を静電気により除去するための電源で、1970年より7200台の販売実績がある、業界トップの製品です。

用途： 環境に配慮した廃棄物処理設備
使用例： 電力、鉄鋼、セメント、硝子・産業廃棄物等の処理プラント



医療装置用電源

特 長： X線用高電圧電源で高周波インバータを用い、安定した出力、高信頼性、小型化を実現しています。

用途： X線発生装置
使用例： 医療用X線装置



UVランプ用電源

特 長： 高周波インバータを用い、小型化、高安定出力を実現しています。FPD生産ライン用ではシェアNo.1です。

使用例： FPDパネル貼り合せ、印刷機



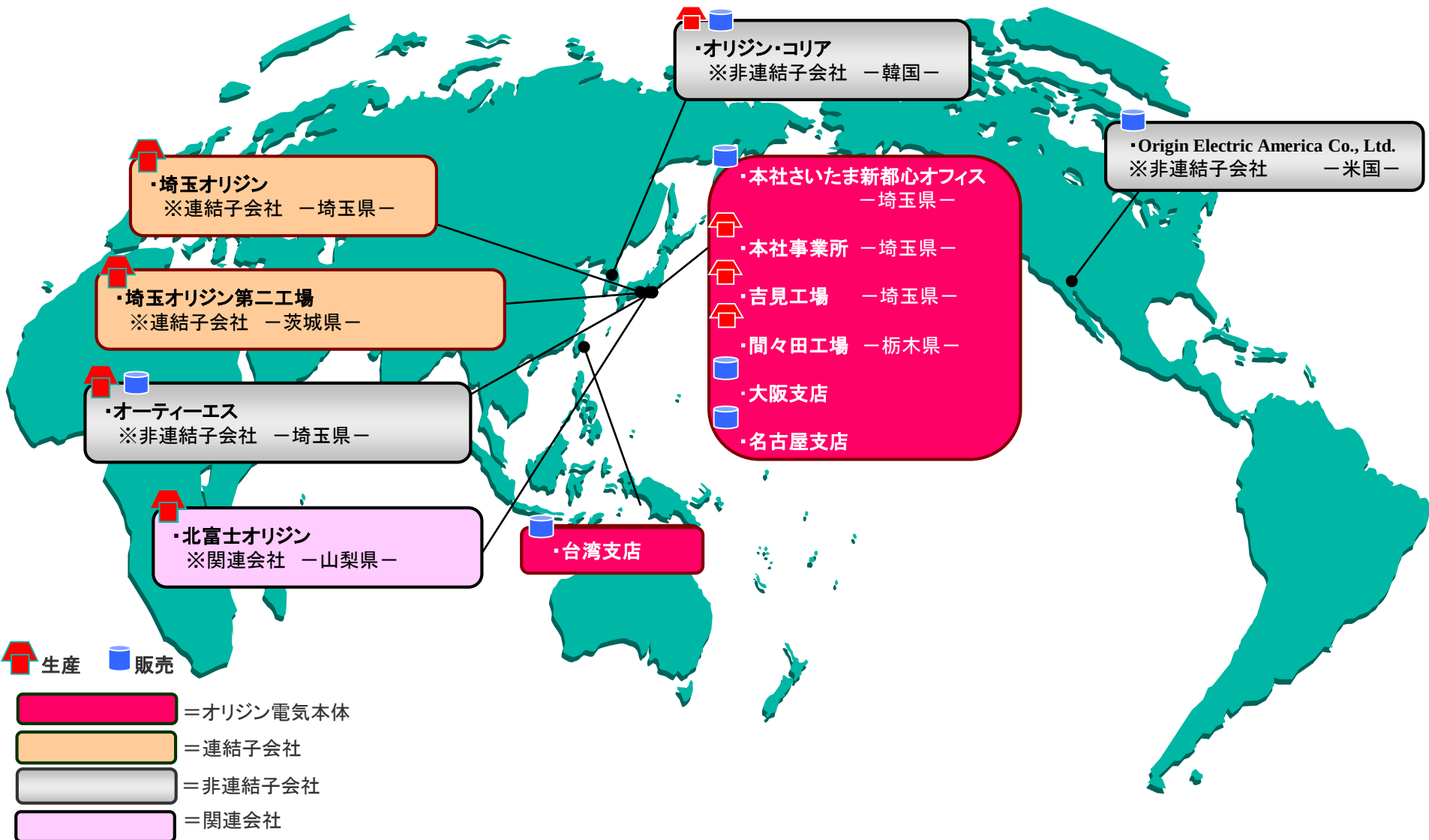
半導体・液晶製造装置用電源

特 長： 高電圧技術を活かし、半導体製造装置用など様々な製品を供給しています。

使用例： 半導体プロセスにおける材料成膜、太陽電池パネル、有機EL、液晶、PDPの成膜



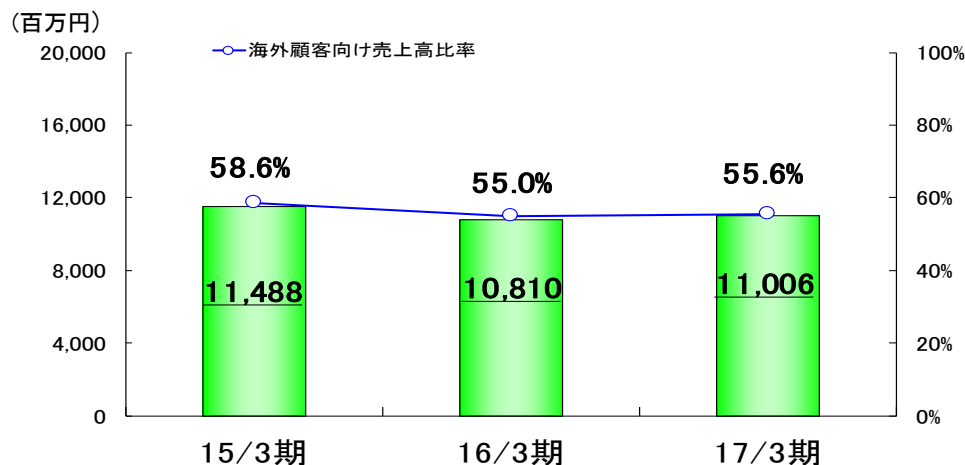
生産・販売拠点



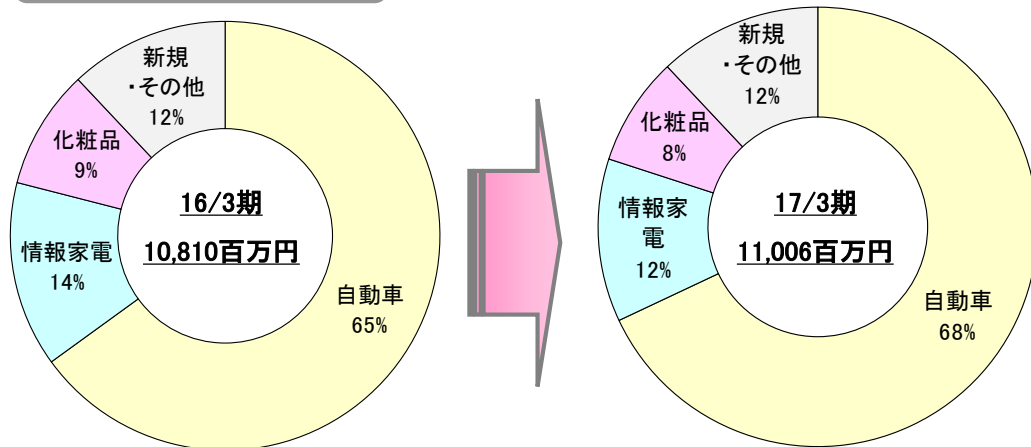
ケミトロニクス事業

1. 概況

連結売上高



市場別連結売上高比率



◆POINT◆

◇17/3期 連結決算概要

売上高は前期比1.8%増の110億6百万円(総売上高の35.2%)となりました。国内外の全子会社において、主力の自動車関連分野が堅調に推移しました。更なるグローバル展開を目指す中、国内サービス拠点の拡充、国内市場の深耕を行い、前期比微増となりました。

◇18/3期 連結計画概要

1 国内

自動車分野でタイムリーな新製品の投入、販売体制の拡充で更なる拡販を目指します。機能性塗料の開発に注力し、新規市場・顧客の開拓を推進します。品質管理強化と原材料のコストダウン及び業務効率の改善による原価低減を継続してまいります。

2 海外

海外子会社(中国3拠点、東南アジア2拠点)の供給体制の最適化と品質管理強化を図ります。更なるグローバル展開を目指し、事業部と連携しながら自動車分野の拡大を目指します。

通期売上高計画115億円(連結調整後)

2. 新製品紹介

自動車内装めっき用塗料 エコネットZ

※写真は製品のイメージです

◇特長

自動車内装めっき用トルエン・キシレンフリー塗料であり
従来品(オリジプレートZ)の長所・特性を継承しています。

◇対応素材

クロムめっき素材

◇用途

自動車内装向け



PIXTA

3. トピックス

東邦化研工業移転概要

技術・製造・営業・管理一体による移転

- ・移転の狙い、目的：老朽化対策、増産対応及びBCP対策
- ・所在：さいたま市岩槻区 上野4丁目5番14
- ・敷地面積：6,208.78㎡（1878.15坪）（足立旧本社の3倍）
- ・本社事務所：軽量鉄骨造、危険物製造所、倉庫：重量鉄骨（8棟）
- ・新工場生産能力：現工場比数量1.5倍、件数1.6倍の60トン/年
- ・土地：事業用定期借地（存続期間30年以上50年未満）
- ・引渡し時期：2017年10月中旬

補助金の活用

- ・埼玉県、さいたま市の産業立地促進補助金



4. 主要製品紹介

環境対応塗料

特 長：環境への対応、自動車VOC削減への対応をしています。

使用例：・自動車内装部品
・携帯電話
・パソコン等

品 目：・水系塗料 “プラミーズ” シリーズ
・トルエンキシレンフリー塗料 “エコネット” シリーズ



プラスチック用塗料

特 長：作業性、意匠性に優れ、高付加価値を生む塗料です。

使用例：・自動車の内外装部品
・携帯電話
・パソコン
・デジタルカメラ
・化粧品容器
・スポーツ用品 等



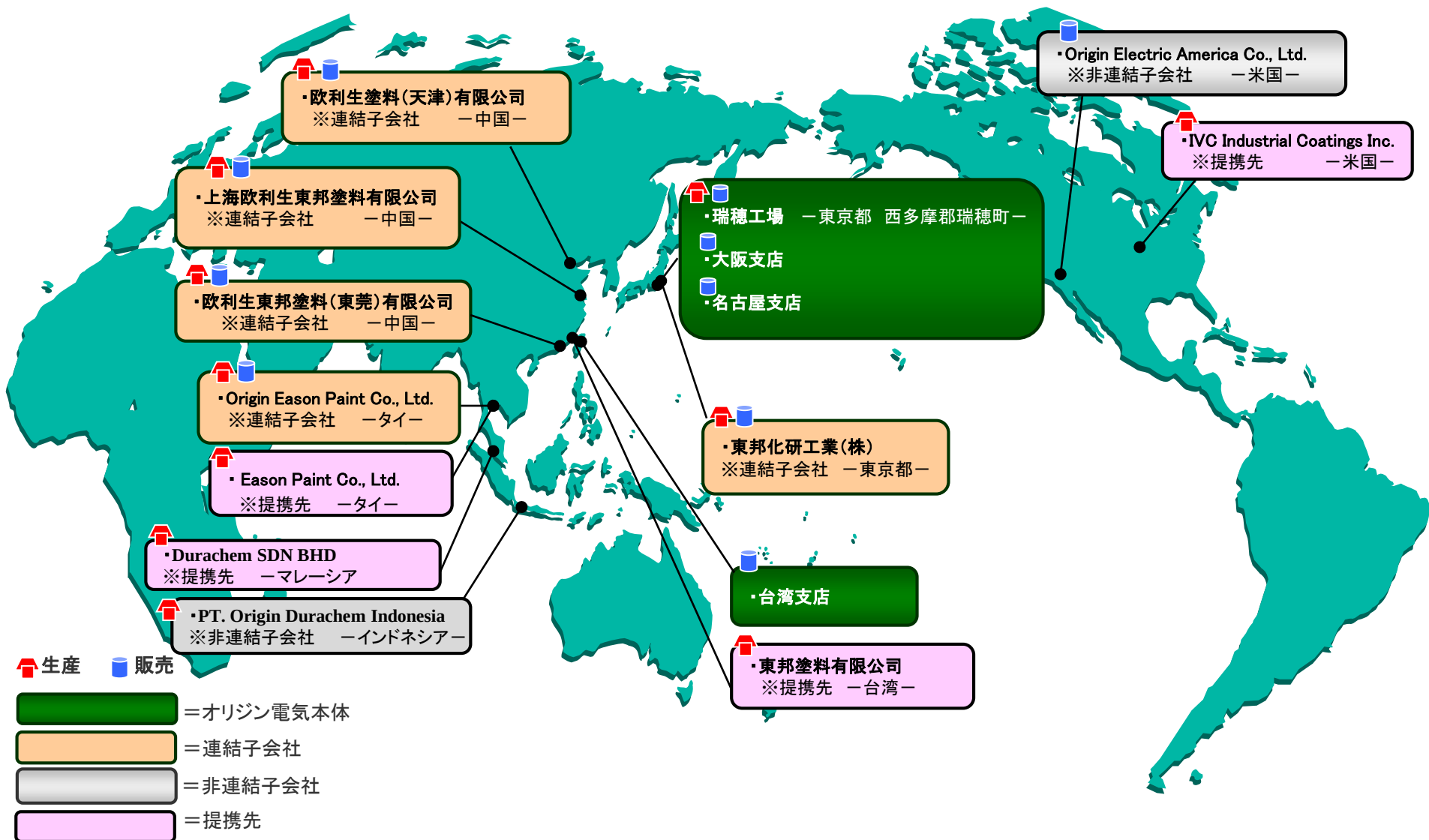
めっき非鉄金属／蒸着部品用塗料

特 長：めっき素材、蒸着など金属調意匠の外観加工に優れた適応性を有します。

使用例：・自動車外装部品
・携帯電話
・デジタルカメラ
・パチンコ、パチスロ部品等



生産・販売拠点



◇当資料はオリジン電気株式会社が作成したものであり内容に関する一切の権利は当社に帰属しています。
複写及び無断転載はご遠慮下さい。

◇当資料に掲載しております情報は、2017年3月期連結決算の経営成績や財務内容等の提供を目的としておりますが、
内容についていかなる保証を行うものではありません。

◇業績予想等は、現時点での入手可能な情報に基づき作成したものであり、様々な不確定要素が内在していますので、
実際の業績はこれらの予想数値とは異なる場合があります。

◇当資料は当社が現在発行している、また将来発行する株式や債券等の保有を推奨することを目的に作成したものではありません。

————— プレス・アナリスト・機関投資家様 個別取材窓口 —————

オリジン電気株式会社

経営企画部

TEL:048－755－9422